

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月26日
【事業年度】	第49期（自平成29年4月1日至平成30年3月31日）
【会社名】	興銀リース株式会社
【英訳名】	IBJ Leasing Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 本山 博史
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門一丁目2番6号
【電話番号】	(03)5253-6511（代表）
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 佐藤 健介
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門一丁目2番6号
【電話番号】	(03)5253-6511（代表）
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 佐藤 健介
【縦覧に供する場所】	興銀リース株式会社首都圏営業第二部 （埼玉県さいたま市大宮区仲町二丁目65番2号） 興銀リース株式会社大阪営業部 （大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号） 興銀リース株式会社名古屋支店 （愛知県名古屋市中区錦一丁目11番11号） 興銀リース株式会社神戸支店 （兵庫県神戸市中央区京町69番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	354,779	353,733	364,174	429,405	399,738
経常利益 (百万円)	17,405	18,972	18,570	18,789	19,964
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	10,531	11,144	11,609	12,414	13,643
包括利益 (百万円)	13,410	15,818	12,090	12,372	15,695
純資産額 (百万円)	109,840	123,297	132,786	141,755	154,632
総資産額 (百万円)	1,462,183	1,551,704	1,718,720	1,752,284	1,821,501
1株当たり純資産額 (円)	2,458.28	2,764.23	2,978.61	3,202.27	3,492.55
1株当たり当期純利益金額 (円)	264.75	261.32	272.20	291.08	319.91
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	7.2	7.6	7.4	7.8	8.2
自己資本利益率 (%)	11.4	10.0	9.5	9.4	9.6
株価収益率 (倍)	9.8	9.5	7.3	8.2	9.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	47,681	70,338	150,170	73,100	54,196
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,506	456	224	487	2,096
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	56,118	71,895	161,507	67,213	44,317
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	35,954	37,457	48,332	41,563	29,607
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	1,036 (121)	1,050 (122)	1,072 (123)	1,053 (118)	1,081 (106)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月	平成29年 3 月	平成30年 3 月
売上高 (百万円)	190,931	195,036	214,488	291,897	268,867
経常利益 (百万円)	10,382	12,913	11,920	16,368	12,426
当期純利益 (百万円)	7,039	8,757	11,511	12,059	9,074
資本金 (百万円)	17,874	17,874	17,874	17,874	17,874
発行済株式総数 (株)	42,649,000	42,649,000	42,649,000	42,649,000	42,649,000
純資産額 (百万円)	85,804	94,975	105,336	115,215	122,653
総資産額 (百万円)	1,027,777	1,103,785	1,231,401	1,356,813	1,508,685
1株当たり純資産額 (円)	2,011.90	2,226.95	2,469.88	2,701.51	2,875.92
1株当たり配当額 (内 1株当たり中間 配当額) (円)	54.00 (26.00)	56.00 (28.00)	60.00 (30.00)	64.00 (30.00)	70.00 (32.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	176.96	205.33	269.91	282.76	212.76
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	8.3	8.6	8.6	8.5	8.1
自己資本利益率 (%)	9.3	9.7	11.5	10.9	7.6
株価収益率 (倍)	14.7	12.1	7.4	8.4	14.1
配当性向 (%)	30.5	27.3	22.2	22.6	32.9
従業員数 (外、平均臨時雇用 者数) (人)	525 (57)	537 (61)	573 (66)	594 (63)	621 (59)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【沿革】

当社は、株式の額面金額500円を50円に変更するため、昭和55年4月1日を合併期日として、休業状態の(株)パシフィック・リース（合併会社、昭和51年9月10日旧商号光南機工(株)より商号変更）との合併を行っております。

この合併は、当社の株式額面変更の法律的手続きとして行ったものであり、企業の実体は、被合併会社である(株)パシフィック・リース（昭和56年11月「興銀リース(株)」に商号変更）が合併後もそのまま存続しているのと同様の状態であるので以下では特に記載のない限り、実質上の存続会社である当社に関して記載しております。

年月	沿革
昭和44年12月	(株)日本興業銀行（現(株)みずほ銀行）を中心に他15の事業会社を株主として資本金5億円で(株)パシフィック・リースを設立。
昭和47年2月	香港に現地法人IBJ Leasing (Hong Kong) Ltd. を設立。
昭和47年12月	丸の内商事(株)（現ケイエル・インシュアランス(株)）を設立（現連結子会社）。
昭和56年11月	商号を興銀リース(株)に変更。
昭和59年12月	米国に現地法人IBJ Leasing (USA) Inc. を設立。
昭和62年2月	英国に現地法人IBJ Leasing (UK) Ltd. を設立（現連結子会社）。
平成5年12月	八重洲リース(株)（現ケイエル・リース&エステート(株)）を設立（現連結子会社）。
平成7年6月	米国に現地法人IBJ Leasing America Corp. を設立。
平成8年7月	(株)ケイエル・レンタルを設立。
平成9年2月	米国の現地法人IBJ Leasing (USA) Inc. を解散。
平成10年4月	興銀オートリース(株)を設立。
平成11年2月	日産リース(株)の株式を取得。
平成12年6月	(株)セゾンオートリースシステムズ（現興銀オートリース(株)）の株式を取得（現連結子会社）。
平成13年3月	台湾に現地法人台湾興銀資融股份有限公司を設立。
平成13年6月	ユニバーサルリース(株)の株式を取得（現連結子会社）。
平成14年3月	興銀ファイナンス(株)の株式を取得。
平成14年10月	(株)セゾンオートリースシステムズを存続会社として興銀オートリース(株)と合併し商号を興銀オートリース(株)に変更。
平成16年8月	香港の現地法人IBJ Leasing (Hong Kong) Ltd. を解散。
平成16年9月	台湾の現地法人台湾興銀資融股份有限公司を解散。
平成16年10月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場。
平成17年9月	東京証券取引所市場第一部に銘柄指定。
平成17年10月	丸の内商事(株)を会社分割。 存続会社：ケイエル・インシュアランス(株)に商号変更。新設会社：丸の内商事(株)（現ケイエル商事(株)）（ともに現連結子会社）。
平成18年3月	第一リース(株)の株式を取得（現連結子会社）。
平成18年9月	東日本リース(株)の株式を取得。
平成19年4月	(株)ケイエル・レンタルを吸収合併。
平成19年4月	ケイエル・オフィスサービス(株)を設立（現連結子会社）。
平成20年2月	興銀ファイナンス(株)を解散。
平成20年7月	中国に現地法人興銀融資租賃（中国）有限公司を設立（現連結子会社）。
平成21年11月	米国の現地法人IBJ Leasing America Corp. を解散。
平成22年8月	インドネシアに現地法人PT. IBJ VERENA FINANCEを設立（現連結子会社）。
平成23年3月	シーメンスファイナンシャルサービス(株)（アイエスリース(株)に商号変更）の株式を取得。
平成24年2月	東芝ファイナンス(株)の法人向け金融サービス事業を会社分割により承継したティーファス(株)（現IBJ東芝リース(株)）の株式を取得（現連結子会社）。
平成24年2月	東芝医用ファイナンス(株)の株式を取得。
平成25年3月	アイエスリース(株)を解散。
平成27年4月	日産リース(株)を吸収合併。
平成27年9月	東日本リース(株)の全株式を譲渡。
平成28年2月	バミュダに米国航空機リース会社Aircastle Limitedと合併で航空機オペレーティング・リース専業会社IBJ Air Leasing Limitedを設立（現連結子会社）。
平成28年4月	東芝医用ファイナンス(株)の全株式を譲渡。
平成28年8月	米国に米国航空機リース会社Aircastle Limitedと合併で航空機オペレーティング・リース専業会社IBJ Air Leasing (US) Corp. を設立（現連結子会社）。

3【事業の内容】

当社グループは、平成30年3月31日現在、当社、子会社156社（国内123社、海外33社）及び関連会社6社（国内2社、海外4社）で構成され、その主な事業内容として産業工作機械、輸送用機器、情報関連機器等のリース取引及び割賦販売取引並びに各種金融取引を営んでおります。

(1)当社グループの主な事業内容は次のとおりであり、その事業区分は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメント情報の区分と同一であります。なお、当連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しております。

リース・割賦・・・・・・・・産業工作機械、輸送用機器、情報関連機器等のリース業務(リース取引の満了・中途解約に伴う物件販売等を含む)及び生産設備、建設土木機械、商業用設備等の割賦販売業務

ファイナンス・・・・・・・・企業金融、船舶ファイナンス、ファクタリング業務及び営業目的の収益を得るために所有する有価証券の運用業務等

その他・・・・・・・・中古物件売買、太陽光売電業務等

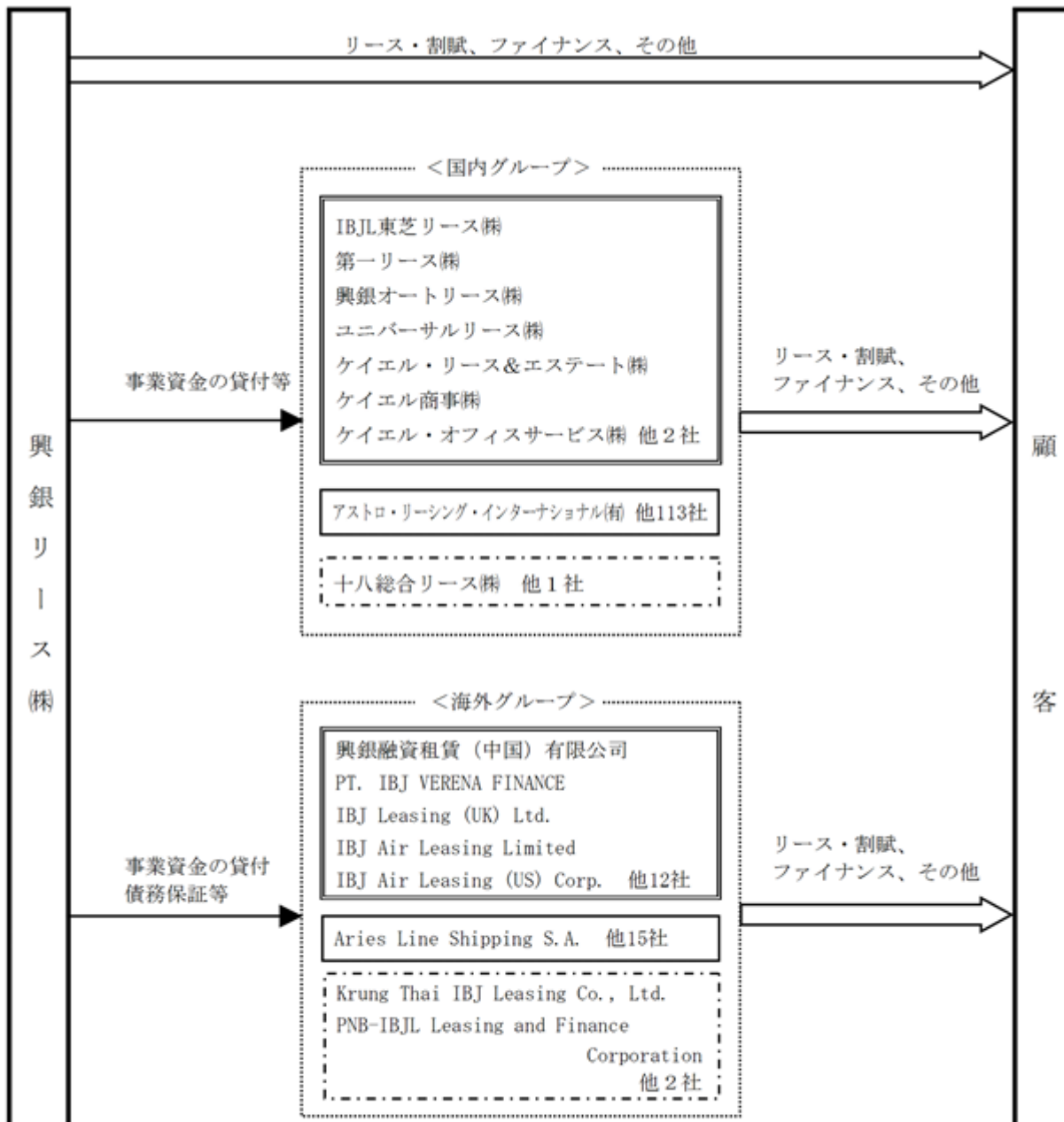
(2)当社、子会社及び関連会社の当該事業に係る位置づけは次のとおりであります。

会社名	事業区分		
	リース・割賦	ファイナンス	その他
興銀リース(株)			
子会社			
連結子会社（26社）			
IBJL東芝リース(株)			
第一リース(株)			
興銀オートリース(株)			
ユニバーサルリース(株)			
ケイエル・リース&エステート(株)			
ケイエル商事(株)			
ケイエル・インシュアランス(株)			
ケイエル・オフィスサービス(株)			
興銀融資租賃（中国）有限公司			
PT. IBJ VERENA FINANCE			
IBJ Leasing (UK) Ltd.			
IBJ Air Leasing Limited			
IBJ Air Leasing (US) Corp.			
IBJ Air Funding Limited			
Aircraft MSN 4126 LLC			
Aircraft MSN 2472 LLC			
IBJ Air Leasing (Ireland) 1 Limited			
Aircraft MSN 7160 LLC			
Aircraft MSN 32457 LLC			
IBJ Air Funding (US) LLC			
Cygnus Line Shipping S.A.			
Draco Line Shipping S.A.			
Gemini Line Shipping S.A.			
Orion Line Shipping S.A.			
Pyxis Line Shipping S.A.			
合同会社BBリーシング			
非連結子会社（130社）			
アストロ・リーシング・インターナショナル(有)			
他102社（注）			
Aries Line Shipping S.A. 他26社			

会社名	事業区分		
	リース・割賦	ファイナンス	その他
関連会社 持分法適用会社（3社） 十八総合リース㈱ Krung Thai IBJ Leasing Co., Ltd. PNB-IBJL Leasing and Finance Corporation 持分法非適用会社（3社）			

(注) アストロ・リーシング・インターナショナル(有) 他102社は、主として匿名組合契約方式による賃貸事業を行っている営業者であります。

(3) 事業系統図は次のとおりであります。



(注) 当社と子会社との主な取引は、事業資金の貸付及び借入等に対する債務保証であります。

連結子会社
 非連結子会社
 関連会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業の 内容	議決権の所有・被所有割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) IBJL東芝リース㈱ (注)4	東京都 港区	1,520百万円	リース・割賦 ファイナンス その他	90	-	法人向けにリース・割賦販売等を行っております。なお、当社より各種設備の賃貸等を行っております。役員の兼任1名
第一リース㈱ (注)2	東京都 港区	2,000百万円	リース・割賦 ファイナンス その他	90.03	-	法人向けにリース・割賦販売等を行っております。なお、当社より各種設備の賃貸・事業資金の貸付等を行っております。
興銀オートリース㈱	東京都 港区	386百万円	リース・割賦	100	-	オートリース等を行っております。なお、当社より事業資金の貸付等を行っております。
ユニバーサルリース㈱	東京都 中央区	50百万円	リース・割賦	90	-	法人向けにリース・割賦販売等を行っております。なお、当社より各種設備の賃貸等を行っております。
ケイエル・リース&エステート㈱	東京都 港区	10百万円	リース・割賦 その他	100	-	建物リース及び太陽光売電業務を行っております。なお、当社と債権譲渡契約等を締結しております。
ケイエル商事㈱	東京都 港区	10百万円	その他	100	-	中古物件売買を行っております。
ケイエル・オフィスサービス㈱	東京都 港区	10百万円	その他	100	-	事務受託業務を行っております。なお、当社より総務業務の委託等を行っております。
興銀融資租賃(中国)有限公司 (注)2	中国 上海市	US\$30,000千	リース・割賦 ファイナンス	100	-	中国における日系企業向けを主とした金融サービスを提供しております。なお、当社より債務の保証等を行っております。
PT. IBJ VERENA FINANCE	インドネシア ジャカルタ	IDR176,250,000千	リース・割賦 ファイナンス	80	-	インドネシアにおける日系企業向けを主とした金融サービスを提供しております。なお、当社より債務の保証等を行っております。
IBJ Leasing (UK) Ltd.	英国 ロンドン	GBP6,000千	リース・割賦 ファイナンス	100	-	欧州地域における金融サービスを提供しております。
IBJ Air Leasing Limited	バミューダ ハミルトン	US\$1	リース・割賦	75	-	航空機リースを行っております。 役員の兼任1名
IBJ Air Leasing (US) Corp.	米国 デラウェア州	US\$100	リース・割賦	75	-	航空機リースを行っております。 役員の兼任1名
その他14社						

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業の 内容	議決権の所有・被所有割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(持分法適用関連会社) 十八総合リース㈱ (注)3	長崎県 長崎市	895百万円	リース・割賦 ファイナンス	17.33	-	法人向けにリース・割賦販売等を行っております。なお、当社より各種設備の割賦販売等を行っております。
Krung Thai IBJ Leasing Co., Ltd.	タイ バンコク	THB100,000千	リース・割賦 ファイナンス	49	-	タイにおける金融サービスを提供しております。なお、当社より債務の保証等を行っております。
PNB-IBJL Leasing and Finance Corporation	フィリピン マニラ	PHP600,000千	リース・割賦 ファイナンス	25	-	フィリピンにおける金融サービスを提供しております。なお、当社より事業資金の貸付等を行っております。

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメント情報の区分の名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 持分は100分の20未満ですが、実質的な影響力を持っているため関連会社としたものであります。

4. IBJL東芝リース㈱については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(1) 売上高 92,302百万円 (2) 経常利益 5,535百万円 (3) 当期純利益 3,799百万円
(4) 純資産額 29,640百万円 (5) 総資産額 329,044百万円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
リース・割賦 ファイナンス その他	892 (94)
全社(共通)	189 (12)
合計	1,081 (106)

- (注) 1. 当社グループでは、セグメント毎の経営組織体系を有しておらず、同一の従業員が複数のセグメントに従事しております。
2. 従業員数は就業員数であり、臨時従業員は()内に年間の平均人数を外数で記載しております。
3. 臨時従業員には、パートタイマー及び派遣社員を含んでおります。
4. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定セグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数	平均年間給与(円)
621(59)	42.4	15年7ヶ月	7,388,676

セグメントの名称	従業員数(人)
リース・割賦 ファイナンス その他	502 (52)
全社(共通)	119 (7)
合計	621 (59)

- (注) 1. 当社では、セグメント毎の経営組織体系を有しておらず、同一の従業員が複数のセグメントに従事しております。
2. 従業員数は就業員数であり、臨時従業員は()内に年間の平均人数を外数で記載しております。
3. 臨時従業員には、パートタイマー及び派遣社員を含んでおります。
4. 平均年間給与(税込)は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
5. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定セグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

一部の国内連結子会社において労働組合があります。なお、労使関係について特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

企業理念

私たちは、豊かな未来へ繋がる価値ある金融サービスの提供を通じて、広く社会に貢献する企業グループを目指します。

経営方針

お客様の多様なニーズにお応えし、グループの総合力を結集して、的確かつ迅速なサービスの提供を目指します。

株主・市場からの評価と信頼の一層の向上に努めます。

積極的な人材の育成・登用と自己研鑽を通じて、活力に満ち、働き甲斐のある会社風土の醸成に努めます。

法令及びその精神を遵守すると共に、企業としての社会的責任を常に認識し、広く社会の理解と共感を得られる企業グループを目指します。

行動指針（3つのC）

挑戦（Challenge）

変革（Change）

創造（Create）

(2) 経営環境

今後の当社グループを取り巻く事業環境について、世界経済は、米国・欧州での金利上昇や一部地域での地政学的リスクには留意する必要があるものの、全体では緩やかな拡大が見込まれ、日本経済においても、民間設備投資や個人消費の底堅い推移などから、景気の回復傾向は維持されるものと予想されます。

(3) 中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

当社グループは、平成29年度より平成31年度を最終年度とする第5次中期経営計画を開始しております。この計画では「お客様と共に挑戦を続ける、価値創造カンパニー」をビジョンとし、これまでに蓄積されたビジネスノウハウ・財務体力を活かして、既存のビジネスラインに加え、より収益性の高いビジネスを積極的に推進することを掲げ、物件に係る知見・経験を活かしたコアビジネスの徹底した深掘りによる高付加価値・差別化営業を志向してまいります。さらに、ポートフォリオマネジメントの高度化を進め、財務体力を踏まえた適切なリスクテイクにより日本経済を取り巻く「社会構造・産業構造の変化」に対応した注力分野への取り組みを実行してまいります。第5次中期経営計画の概要につきましては、以下の通りです。

< 第5次中期経営計画（平成29年度～平成31年度）の概要 >

ビジョン	「お客様と共に挑戦を続ける、価値創造カンパニー」	
基本方針	これまでに獲得したビジネスノウハウや財務体力を活かした、より収益性が高いビジネスの推進	
注力分野	既存顧客基盤の深耕 不動産 医療・ヘルスケア	環境・エネルギー グローバル（航空機/海外現地法人） テクノロジー
経営基盤の強化	リスクリターン運営の強化 : 事業ポートフォリオと財務ALMの一体運営 リソース戦略 : ダイバーシティ推進 / 業務生産性の向上	

第5次中期経営計画の2年目にあたる平成30年度については最終年度の数値目標の達成及びその先を見据えた当社グループの更なる飛躍に向けた重要な年度であると考えております。引き続きこの計画で掲げる戦略を推進し、お客様のニーズを的確に捉え、得意とする財務ソリューションに加え、金融の枠を超えた新たな事業領域へ挑戦していくことで、お客様と価値を共創してまいります。

また、当社グループは全てのステークホルダーからの信頼と期待にお応えするため、企業の社会的責任（CSR）を事業運営の基本に据え、持続的な社会の実現と企業価値の向上を目指しております。そのためには、コーポレート・ガバナンスを有効に機能させ、経営の透明性を高めることが必要であり、実効的な取締役会の運営やコンプライアンスの徹底、ポートフォリオマネジメントの高度化をはじめとするリスク管理体制の整備など、内部管理体制の強化に努めてまいります。さらに、全ての社員がその能力を最大限に発揮できる環境を整えるために、ITシステム投資や業務プロセス改革による業務生産性の向上とダイバーシティを両輪で推進し、ワーク・ライフ・バランスの充実にも取り組んでまいります。

(4) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標

第5次中期経営計画では、当社グループの更なる成長とステークホルダーに提供する価値の向上を実現するため、計画最終年度の経営目標数値を以下のとおり設定しております。

	数値目標（連結）
親会社株主に帰属する 当期純利益	150億円
ROE	10%
配当性向	20%以上を維持

2【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価、財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、平成30年6月26日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 民間設備投資額とリース設備投資額の動向について

わが国においてリース取引は、企業が設備投資を行う際の調達手段のひとつとして広く利用されております。

民間設備投資額とリース設備投資額の動向はほぼ同一基調で推移してきており、リース設備投資額は企業の設備投資動向に影響を受けるものと考えられます。

当社グループの契約実行高と民間設備投資額及びリース設備投資額の推移は、必ずしも一致しておりませんが、民間設備投資額及びリース設備投資額が大幅に減少した場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(2) 金利リスク及び調達環境の変化による影響について

リース料・賦払金は契約時の金利水準に基づき大宗が定額収入であります。有利子負債には変動金利が含まれているため売上原価の一部である資金原価は変動いたします。したがって、金利変動が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。また、固定金利による有利子負債の比重を高めると金利変動の影響を低くすることが可能となりますが、一般的に固定金利は変動金利に比して高いため粗利益が縮小する場合があります。固定金利と変動金利の有利子負債の比重及び構成比が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

こうした金利リスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を利用しております。具体的には、ALM（資産負債の統合管理）の手法によるマッチング比率（固定・変動利回りの資産に対して固定・変動金利の負債・デリバティブを割り当てることにより、資産のうち金利リスクを負っていない部分の割合）の管理を行っております。よって金利リスクを負う部分については、市場金利の変動によって当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

なお、当社グループの資金調達は、間接調達のほかコマーシャル・ペーパー等の直接調達も含まれており、調達環境の変化によっては資金調達に影響を与える可能性があります。

(3) 信用リスクについて

リース取引等は、取引先に対し比較的長期間（平均5年程度）にわたり、賃貸という形で信用を供与する取引で、取引先からリース料等を全額回収して当初の期待利益が確保されます。したがって、当社は取引先毎の厳格な与信チェック、リース物件の将来中古価値の見極め等により契約取組の可否判断を行うとともに、信用リスクの定量的なモニタリングにより営業資産のポートフォリオにおける信用リスクをコントロールし、信用リスクを極小化するよう努めております。また、取引先の信用状況が悪化しリース料等の不払いが生じた場合には、リース物件の売却又は他の取引先への転用等により可能な限り回収の促進を図っております。

さらに、信用リスク管理の観点から日本公認会計士協会の「リース業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（業種別監査委員会報告第19号）に基づき、「金融検査マニュアル」（金融庁）に準じた資産の自己査定を実施しております。

なお、この結果、平成30年3月期における「破産更生債権及びこれらに準ずる債権等」に対する信用部分は8,400百万円であり、これに対して100%の引当を実施し、全額を取立不能見込額として直接減額しております。

しかしながら、今後の景気動向によっては企業の信用状況の悪化により新たな不良債権が発生し、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(4) 諸制度の変更リスクについて

当社グループは、現行の法律・税務・会計等の制度や基準をもとに、リース、レンタル、割賦販売、貸付等をはじめとする総合金融サービスの提供を行っております。これらの諸制度が大幅に変更された場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(5) その他のリスクについて

その他、事務の不適切な処理等が行われる事務リスク、ITシステムの障害・誤作動が発生するシステムリスク、法令・社会的規範に反するコンプライアンスリスク等のオペレーショナルリスクやオペレーティング・リースの見積残存価額等が当初の想定水準を下回る価格変動リスク等が、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

財政状態及び経営成績の状況

平成29年度の経済環境は、世界経済は米国・欧州経済の着実な拡大やアジア経済が底堅く推移したこともあり、緩やかな拡大基調で推移しました。

わが国経済については、世界経済の影響もあり緩やかな回復傾向が続き、企業収益の改善等を背景に設備投資は安定的に推移いたしました。

リース業界におきましては、リース取扱高は前年度とほぼ横ばいで推移いたしました。

また、金融市場では金融緩和政策が継続されるなか、長期金利、短期金利ともに引き続き低位で推移いたしました。

こうした経営環境のなか、当社グループは、平成29年4月より平成31年度までの3年間を計画期間とする第5次中期経営計画をスタートいたしました。この計画では「お客様と共に挑戦を続ける、価値創造カンパニー」をビジョンとし、これまでに蓄積されたビジネスノウハウ・財務体力を活かして、既存のビジネスラインに加え、より収益性の高いビジネスを積極的に推進することを掲げております。

初年度となる平成29年度は、新しい領域への挑戦や収益性を重視した取り組みの推進など、更なる成長に向けた戦略を着実に実行いたしました。この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は13,643百万円となり、5期連続で最高益を更新いたしました。

平成29年度の営業状況につきましては、第5次中期経営計画で掲げるビジネス戦略及び注力分野への取り組みを推進し、お客様の事業活動全体を捉えた付加価値の高い提案営業を行うことで、大企業・中堅企業を中心としたお客様の設備投資や事業活動の推進に資する取り組みが伸長いたしました。

従来から強みを有する製造業や内需型産業に対するコアビジネスでは、お客様の仕入れや製品の販売の流れに着目した商流介在型ビジネスにより大口案件を成約するとともに、不動産分野では社会的ニーズが高まる保育施設及びホテルを対象とした不動産リースで初めての実績を計上いたしました。さらに、この分野では有力な事業者と連携し、これまでの物流・商業施設に加え、製造工場や海外（米国・欧州）不動産を対象とした取り組みを開始いたしております。

同時に、日本の社会構造・産業構造の変化にともないビジネスの拡大が期待できる分野へも注力いたしております。環境・エネルギー分野では、補助金を活用したビジネスの推進により、企業の省エネルギー投資を取り込む一方で、大規模風力発電設備のリースなどエネルギー事業への取り組みが伸長し、取り扱いが大きく増加いたしました。医療・ヘルスケア分野では、医療機器のファイナンスに取り組みながら、介護用車両のリースなど医療機関が手掛ける事業の広がりに対応したビジネスを拡大させております。グローバル分野では、タイ・インドネシアで現地財閥系企業との取引拡大や中国での医療機関向けリースの伸長など非日系企業への取り組みを強化しております。また、航空機ビジネスでは蓄積したノウハウを機体担保ローンへの取り組みに活かし、営業資産残高を着実に増加させております。

以上の結果、契約実行高は、前期（平成29年3月期）比22.3%増加の1,335,909百万円となり、営業資産残高は前期末比4.6%増加の1,683,005百万円となりました。

損益状況につきましては、売上高は前期に不動産の賃貸満了物件の売却が重なったこともあり、前期比6.9%減少の399,738百万円となりました。売上総利益は、前期比で差引利益（資金原価控除前の売上総利益）が増加しましたが、グローバル分野での取り組み伸長による外貨借入の増加等により資金原価が増加したことから、同2.6%減少の38,197百万円となりました。経常利益は前期に発生した信用コストの負担が無かったことから同6.3%増加の19,964百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は同9.9%増加の13,643百万円となりました。

財政状態につきましては、契約実行高の増加により営業資産は前期（平成29年3月期）末比74,287百万円増加し1,683,005百万円となり、資産合計額は同69,217百万円増加の1,821,501百万円となりました。

また、負債合計額は前期末比56,339百万円増加の1,666,869百万円となり、このうち有利子負債は営業資産の増加に伴い1,536,240百万円となりました。

純資産は、期間利益の蓄積等により引き続き増加し154,632百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。（売上高は外部顧客への売上高を記載しております。）

〔リース・割賦〕

リース・割賦の売上高は前期（平成29年3月期）に不動産の賃貸満了物件の売却が重なったこともあり、前期比7.3%減少して386,007百万円となり、営業利益は同1.6%減少して15,524百万円となりました。

当期末（平成30年3月期）末の営業資産残高は、前期末比34,043百万円増加し1,122,183百万円となりました。

〔ファイナンス〕

ファイナンスの売上高はお客様の多様なニーズに対応したことで前期比9.4%増加して12,510百万円となり、営業利益は同29.7%増加して7,963百万円となりました。

当期末の営業資産残高は、前期末比36,354百万円増加し556,933百万円となりました。

〔その他〕

その他の売上高は前期比11.1%減少して1,220百万円となり、営業利益は同15.9%減少して393百万円となりました。

当期末の営業資産残高は太陽光発電事業のブリッジを取り組んだことにより、前期末比3,888百万円増加し3,888百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、営業資産が増加したこと等により54,196百万円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、継続的なシステム投資等により2,096百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、間接調達で439百万円の支出に対し、コマーシャル・ペーパー及び債権流動化による直接調達で47,718百万円の収入となり、財務活動全体では44,317百万円の収入となりました。

以上の結果、当期（平成30年3月期）末における現金及び現金同等物の残高は、前期（平成29年3月期）末比11,955百万円減少し、29,607百万円となりました。

(2) 特定金融会社等の開示に関する内閣府令に基づく貸付金（営業貸付金及びその他の営業貸付債権）の状況

「特定金融会社等の開示に関する内閣府令」（平成11年5月19日 大蔵省令第57号）に基づく、提出会社における貸付金の状況は次のとおりであります。

貸付金の種別残高内訳

平成30年3月31日現在

貸付種別	件数（件）	構成割合（％）	残高（百万円）	構成割合（％）	平均約定金利（％）
消費者向					
無担保（住宅向を除く）	-	-	-	-	-
有担保（住宅向を除く）	-	-	-	-	-
住宅向	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-
事業者向					
計	1,954	100.00	297,344	100.00	2.17
合計	1,954	100.00	297,344	100.00	2.17

資金調達内訳

平成30年3月31日現在

借入先等	残高（百万円）	平均調達金利（％）
金融機関等からの借入	679,362	0.64
その他	620,518	0.10
社債・CP	515,700	0.07
合計	1,299,880	0.38
自己資本	121,879	-
資本金・出資額	17,874	-

業種別貸付金残高内訳

平成30年3月31日現在

業種別	先数（件）	構成割合（％）	残高（百万円）	構成割合（％）
製造業	97	15.67	44,601	15.00
建設業	9	1.45	168	0.06
電気・ガス・熱供給・水道業	7	1.13	12,508	4.21
運輸・通信業	84	13.57	104,497	35.14
卸売・小売業、飲食店	139	22.46	13,210	4.44
金融・保険業	18	2.91	23,674	7.96
不動産業	30	4.85	43,132	14.51
サービス業	182	29.40	42,398	14.26
個人	-	-	-	-
その他	53	8.56	13,153	4.42
合計	619	100.00	297,344	100.00

担保別貸付金残高内訳

平成30年3月31日現在

受入担保の種類	残高(百万円)	構成割合(%)
有価証券	2,100	0.71
うち株式	2,100	0.71
債権	10,347	3.48
うち預金	-	-
商品	-	-
不動産	12,130	4.08
財団	-	-
その他	98,370	33.08
計	122,950	41.35
保証	13,118	4.41
無担保	161,276	54.24
合計	297,344	100.00

期間別貸付金残高内訳

平成30年3月31日現在

期間別	件数(件)	構成割合(%)	残高(百万円)	構成割合(%)
1年以下	129	6.60	29,384	9.88
1年超 5年以下	1,150	58.86	112,093	37.70
5年超 10年以下	526	26.92	110,646	37.21
10年超 15年以下	70	3.58	29,390	9.89
15年超 20年以下	70	3.58	15,461	5.20
20年超 25年以下	9	0.46	367	0.12
25年超	-	-	-	-
合計	1,954	100.00	297,344	100.00
1件当たり平均期間			6.38年	

(注) 期間は、約定期間によっております。

(3) 営業取引の状況

契約実行高

当連結会計年度における契約実行高の実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		契約実行高(百万円)	前年同期増減率(%)
リース・割賦	情報・事務用機器	86,733	1.5
	産業・土木・建設機械	78,725	26.3
	その他	118,066	29.6
	ファイナンス・リース計	283,525	0.0
	オペレーティング・リース	87,285	36.7
	リース計	370,810	12.0
	割賦	59,671	10.0
		430,482	9.5
ファイナンス		901,485	46.3
その他		3,941	-
合計		1,335,909	22.3

(注) 1. リースについては、当連結会計年度に取得した賃貸用資産の取得金額、割賦については、割賦債権から割賦未実現利益を控除した額を表示しております。

2. 「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおり、当連結会計年度末より報告セグメントの区分を変更しており、前連結会計年度の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値と比較しております。

営業資産残高

連結会計年度における営業資産残高をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		前連結会計年度		当連結会計年度	
		期末残高(百万円)	構成比(%)	期末残高(百万円)	構成比(%)
リース・割賦	情報・事務用機器	234,256	14.6	232,692	13.8
	産業・土木・建設機械	317,123	19.7	296,412	17.6
	その他	257,923	16.0	294,279	17.5
	ファイナンス・リース計	809,304	50.3	823,384	48.9
	オペレーティング・リース	141,014	8.8	160,206	9.5
	リース計	950,318	59.1	983,590	58.4
	割賦	137,820	8.6	138,592	8.2
		1,088,139	67.6	1,122,183	66.7
ファイナンス		520,579	32.4	556,933	33.1
その他		-	-	3,888	0.2
合計		1,608,718	100.0	1,683,005	100.0

(注) 1. 割賦については、割賦債権から割賦未実現利益を控除した額を表示しております。

2. 「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおり、当連結会計年度末より報告セグメントの区分を変更しており、前連結会計年度末の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値と比較しております。

営業実績

連結会計年度における営業実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(a)前連結会計年度

セグメントの名称		売上高 (百万円)	売上原価 (百万円)	差引利益 (百万円)	資金原価 (百万円)	売上総利益 (百万円)
リース・ 割賦	ファイナンス・リース	271,335	-	-	-	-
	オペレーティング・リース	134,826	-	-	-	-
	リース計	406,161	375,282	30,879	3,544	27,334
	割賦	10,432	8,465	1,967	453	1,514
		416,594	383,747	32,846	3,997	28,848
ファイナンス		11,438	203	11,235	1,699	9,536
その他		1,372	550	822	-	822
合計		429,405	384,501	44,904	5,697	39,206

(b)当連結会計年度

セグメントの名称		売上高 (百万円)	売上原価 (百万円)	差引利益 (百万円)	資金原価 (百万円)	売上総利益 (百万円)
リース・ 割賦	ファイナンス・リース	276,673	-	-	-	-
	オペレーティング・リース	96,092	-	-	-	-
	リース計	372,766	342,305	30,461	4,779	25,682
	割賦	13,240	11,478	1,761	306	1,455
		386,007	353,783	32,223	5,085	27,137
ファイナンス		12,510	234	12,275	1,873	10,401
その他		1,220	562	658	-	658
合計		399,738	354,581	45,157	6,959	38,197

(注) 1. セグメント間取引については相殺消去しております。

2. 「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおり、当連結会計年度末より報告セグメントの区分を変更しており、前連結会計年度の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(4) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営成績及び財政状態

(a)売上高

売上高は前期（平成29年3月期）に不動産の賃貸満了物件の売却が重なったこともあり前期比29,667百万円減収の399,738百万円となりました。

(b)売上総利益・営業利益

売上原価は売上高の減少に伴い前期比28,657百万円減少し361,541百万円となりました。この内、資金原価はグローバル分野での取り組み伸長による外貨借入の増加等により、同1,262百万円増加し6,959百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、前期比2,210百万円減少し19,034百万円となりました。この内、人件費及び物件費は同147百万円増加し19,782百万円となりました。また信用コストについては、前期に発生した大口の貸倒引当金繰入の一部が今期に戻入となったこと等により、貸倒引当金繰入額等は同2,357百万円減少し782百万円となりました。

以上により、営業利益は前期比1,200百万円増加し、19,162百万円となりました。

(c)経常利益

営業外損益は前期比24百万円減少し純額で802百万円の収益となりました。この内、営業外収益は前期比57百万円減少し1,171百万円となりました。これは持分法による投資利益が88百万円減少したこと等によるものです。営業外費用については前期比33百万円減少し369百万円となりました。

以上により、経常利益は前期比1,175百万円増加し19,964百万円となりました。

(d)親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益は特別利益が586百万円、特別損失が16百万円となり、純額で570百万円の利益となりました。

この特別利益は政策保有株式売却による売却益を計上したことによるもの、特別損失は投資有価証券評価損を計上したことによるものです。

税金等調整前当期純利益は、前期比1,680百万円増加し20,535百万円となりました。

法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額は、6,365百万円となり、非支配株主に帰属する当期純利益は、526百万円となりました。

以上により、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比1,229百万円増加し13,643百万円となりました。

(e)営業資産

当期（平成30年3月期）末の営業資産残高は、第5次中期経営計画で掲げるビジネス戦略及び注力分野への取り組みを推進し、お客様の事業活動全体を捉えた付加価値の高い提案営業を行うことで、大企業・中堅企業を中心としたお客様の設備投資や事業活動の推進に資する取り組みが伸長した結果、前期（平成29年3月期）末比74,287百万円増加し、1,683,005百万円となりました。

(f)総資産

当期末の総資産についても、前期末比69,217百万円増加し1,821,501百万円となりました。

(g)有利子負債残高

当期末の有利子負債残高は、営業資産の増加に伴い前期末比43,801百万円増加し1,536,240百万円となりました。

(h)純資産の部

当期末の純資産合計は、期間利益の蓄積により前期末比12,877百万円増加し154,632百万円となりました。

セグメントごとの状況につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりです。

資本の財源及び資金の流動性

当社グループは、お客様のニーズに対応して幅広い金融サービスを提供するため、資金調達については安定性の確保とコストの抑制を図るよう努めております。また、年度の資金計画と金融環境の変化に即したALM（資産負債の統合管理）運営方針のもと機動的な資金調達を行っております。

当社グループの資金調達につきましては、金融機関からの借入による間接調達と市場からの直接調達による長期及び短期の資金により構成されております。当期末において、間接調達は前期末比3,916百万円減少し919,621百万円となりました。直接調達はコマーシャル・ペーパーの発行及びリース債権の流動化などにより、同47,718百万円増加し616,618百万円となりました。

また、運転資金の流動性の確保及び効率的な調達を行うため、当期末において取引金融機関63社と総額928,137百万円の当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。これらの契約による借入未実行残高は676,567百万円であり、資金の流動性は十分に確保されております。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりです。

(5) 客観的な指標等の進捗状況・分析等

第5次中期経営計画（平成29年度～平成31年度）では、当社グループの更なる成長とステークホルダーに提供する価値の向上を実現するため、計画最終年度の経営目標数値（連結）を以下のとおり設定しております。

初年度となる平成29年度は、新しい領域への挑戦や収益性を重視した取り組みの推進など、さらなる成長に向けた戦略を実行した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期（平成29年3月期）比1,229百万円増加の13,643百万円、ROEは前期末比0.2ポイント上昇の9.6%となり、最終年度の数値目標達成に向け着実に進捗しております。また、配当性向は21.9%となり、20%以上を維持しております。

指標	平成28年度（実績）	平成29年度（実績）	最終年度（平成31年度） の数値目標
親会社株主に帰属する当期純利益	124億円	136億円	150億円
ROE	9.4%	9.6%	10%
配当性向	22.0%	21.9%	20%以上を維持

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

1【賃貸資産】

(1) 設備投資等の概要

当社グループ（当社及び連結子会社）における当連結会計年度の賃貸資産設備投資（無形固定資産を含む）は、次のとおりであります。

区分	取得価額（百万円）
オペレーティング・リース資産	87,285

（注）ファイナンス・リース取引終了後の再リース契約の締結により、リース投資資産から振替えた資産を含んでおりません。

なお、当連結会計年度において、賃貸取引の終了等により売却・除却した資産は、次のとおりであります。

区分	帳簿価額（百万円）
オペレーティング・リース資産	57,834

(2) 主要な設備の状況

当社グループ（当社及び連結子会社）における賃貸資産は、次のとおりであります。

区分	帳簿価額（百万円）
オペレーティング・リース資産	160,206

(3) 設備の新設、除却等の計画

重要な設備の新設・除却等の計画はありません。なお、取引先との契約等に基づき、オペレーティング・リースに係る資産の取得及び除却等を随時行っております。

2【社用資産】

(1) 設備投資等の概要

当社グループ（当社及び連結子会社）における当連結会計年度の自社用資産設備投資（無形固定資産を含む）の主な内訳は、次のとおりであります。

無形固定資産...1,147百万円（システム開発費用）

当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

(2) 主要な設備の状況

提出会社

事業所名 （所在地）	セグメントの名称	帳簿価額					従業員数 （人）
		建物 （百万円）	土地 （百万円） （面積㎡）	その他の有 形固定資産 （百万円）	リース 賃借資産 （百万円）	合計 （百万円）	
本社 （東京都港区）	リース・割賦、 ファイナンス、 その他	248	-	182	176	606	500
国内営業支店等 （大阪市中央区他）	同上	447	144 (524.11)	14	-	606	121
社宅等 （千葉市花見川区他）		521	1,177 (3,305.00)	-	-	1,699	-

（注）上記以外に全社共通事業に係るソフトウェアがあり、帳簿価額は2,275百万円であります。

連結子会社

IBJL東芝リース(株)には全セグメントに係るソフトウェアがあり、帳簿価額は827百万円であります。

なお、その他の連結子会社については、特記すべき重要な設備はありません。

(3) 設備の新設、除却等の計画

特記事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	42,649,000	42,649,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	42,649,000	42,649,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年9月9日 (注)1	5,000	41,849	5,270	17,030	5,270	14,951
平成25年9月20日 (注)2	800	42,649	843	17,874	843	15,794

(注)1. 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 2,199円
発行価額 2,108.28円
資本組入額 1,054.14円
払込金総額 10,541百万円

2. 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

発行価格 2,108.28円
資本組入額 1,054.14円
割当先 みずほ証券株

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	48	21	335	148	49	39,784	40,385	-
所有株式数(単元)	-	175,312	7,938	126,077	60,992	148	55,932	426,399	9,100
所有株式数の割合(%)	-	41.11	1.87	29.57	14.30	0.03	13.12	100.00	-

- (注) 1. 自己株式583株は、「個人その他」に5単元、「単元未満株式の状況」に83株含まれております。
2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	2,930	6.87
日産自動車株式会社退職給付信託口座 信託受託者 みずほ信託銀行株式会社 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12	1,750	4.10
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	1,626	3.81
ユニゾホールディングス株式会社	東京都中央区八丁堀2丁目10-9	1,546	3.62
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,393	3.26
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1-1	1,251	2.93
DOWAホールディングス株式会社	東京都千代田区外神田4丁目14-1	1,120	2.62
新日鉄興和不動産株式会社	東京都港区南青山1丁目15-5	975	2.28
共立株式会社	東京都中央区日本橋2丁目2-16	949	2.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・株式会社東芝退職給付信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	900	2.11
計	-	14,441	33.86

- (注) 1. 信託銀行等の信託業務に係る株式数については、当社として網羅的に把握することができないため、株主名簿上の名義で所有株式数を記載しております。
2. 日産自動車株式会社退職給付信託口座 信託受託者 みずほ信託銀行株式会社 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社の持株数1,750千株は、日産自動車株式会社が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものであり、議決権行使に関する指図者は日産自動車株式会社であります。
3. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・株式会社東芝退職給付信託口)の持株数900千株は、株式会社東芝が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものであり、議決権行使に関する指図者は株式会社東芝であります。

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 42,639,400	426,394	-
単元未満株式	普通株式 9,100	-	-
発行済株式総数	42,649,000	-	-
総株主の議決権	-	426,394	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
興銀リース株式会社	東京都港区虎ノ門一丁目2番6号	500	-	500	0.00
計	-	500	-	500	0.00

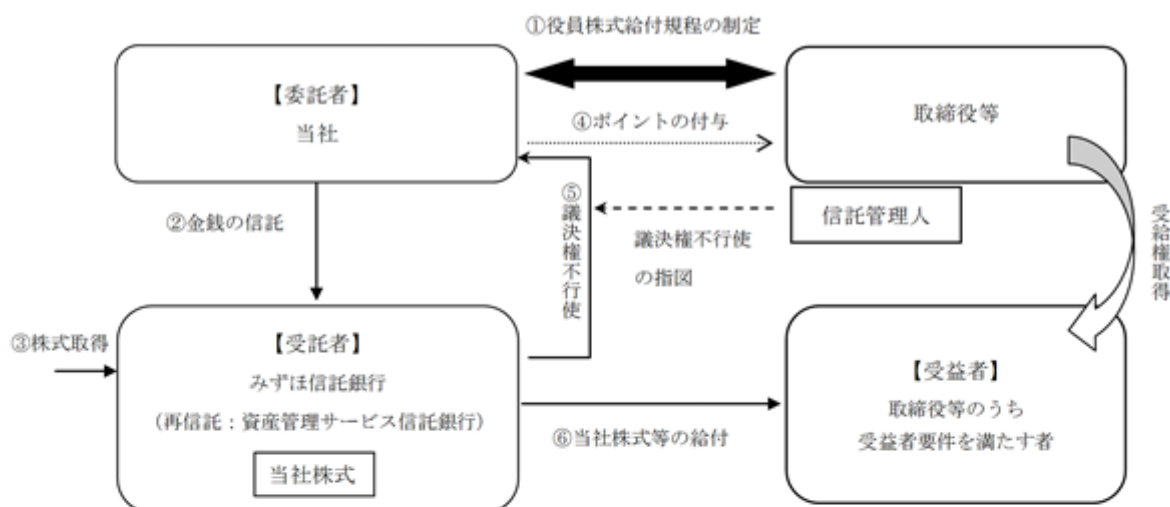
(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

当社は、平成30年6月26日開催の第49回定時株主総会決議により、取締役（取締役会長及び社外取締役を除く）及び取締役を兼務しない執行役員（取締役及び執行役員を総称して「取締役等」といいます。）の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にすることで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献し、ひいては、株式価値を高める意識を株主の皆様と共有することを目的として、業績連動型株式報酬制度を導入いたしました。

本制度の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」といいます。）を通じて取得され、取締役等に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下「当社株式等」といいます。）が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として、当社の各中期経営計画期間の終了後又は退任後の一定の時期となります。

<本制度の仕組み>



- ① 当社は、本株主総会において、本制度について役員報酬の決議を得て、本株主総会で承認を受けた枠組みの範囲内において、役員株式給付規程を制定します。
- ② 当社は、①の本株主総会決議で承認を受けた範囲内で金銭を信託します。
- ③ 本信託は、②で信託された金銭を原資として当社株式を、取引市場を通じてまたは当社の自己株式処分を引き受ける方法により取得します。
- ④ 当社は、役員株式給付規程に基づき取締役等にポイントを付与します。
- ⑤ 本信託は、当社から独立した信託管理人の指図に従い、本信託勘定内の当社株式に係る議決権を行使しないこととします。
- ⑥ 本信託は、取締役等のうち役員株式給付規程に定める受益者要件を満たした者（以下「受益者」といいます。）に対して、当該受益者に付与されたポイント数に応じた当社株式を給付します。ただし、取締役等が役員株式給付規程に定める要件を満たす場合には、ポイントの一定割合について、当社株式の時価相当の金銭を給付します。

対象者に給付する予定の株式の総数

上限 240千株（当初対象期間である平成31年3月末日で終了する事業年度から平成32年3月末日で終了する事業年度までの2事業年度）

本制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

当社の取締役（取締役会長及び社外取締役を除きます。）及び取締役を兼務しない執行役員

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	-	-
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	583	-	583	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元については、収益力の向上を図りつつ業績に応じた配当を実施することを基本方針としております。また、同時に、株主資本の厚みも企業価値を向上させるうえで重要な要素であると考え、株主の皆様への利益還元と株主資本充実のバランスにも十分意を用いて対応しております。

内部留保資金につきましては、今後の成長原資として有効に活用し事業基盤の更なる拡充を図り、中長期的なROEの向上を目指してまいります。

なお、当社は中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うこととし、その決定機関は期末配当については株主総会、中間配当については取締役会（注）としております。

上記方針に基づき、当期の1株当たり配当額につきましては、年間配当額70円00銭（中間期32円00銭、期末38円00銭）といたしました。この結果、当期の配当性向は32.9%となり、連結配当性向は21.9%となります。

なお、当期に係る剰余金の配当につきましては、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年11月8日 取締役会決議	1,364	32.00
平成30年6月26日 第49回定時株主総会決議	1,620	38.00

（注）当社は会社法第454条第5項の規定に基づき「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

4【株価の推移】

（1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第45期	第46期	第47期	第48期	第49期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高（円）	4,050	2,898	2,984	2,699	3,175
最低（円）	2,181	2,168	1,737	1,662	2,202

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

（2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	平成29年11月	平成29年12月	平成30年1月	平成30年2月	平成30年3月
最高（円）	3,135	2,967	2,921	3,010	2,967	3,175
最低（円）	2,903	2,698	2,771	2,862	2,656	2,750

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

男性13名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役社長 (代表取締役)		本山 博史	昭和29年6月15日	昭和52年4月 ㈱日本興業銀行入行 平成14年12月 ㈱みずほコーポレート銀行本店 営業第九部長 平成16年4月 同行執行役員IT・システム統括 部長 平成19年4月 ㈱みずほフィナンシャルグループ 常務執行役員企画グループ長兼 IT・システム・事務グループ長 平成19年6月 同社常務取締役企画グループ長兼 IT・システム・事務グループ長 平成21年4月 同社取締役(平成21年6月まで) ㈱みずほコーポレート銀行代表取 締役副頭取内部監査統括役員 平成23年6月 みずほ証券㈱代表取締役社長 平成28年6月 当社代表取締役社長兼CEO (現任)	(注)4	7
取締役副社長 (代表取締役)		長津 克司	昭和29年10月1日	昭和53年4月 ㈱日本興業銀行入行 平成14年4月 ㈱みずほコーポレート銀行 富山営業部長 平成16年4月 同行日本橋営業部長 平成19年4月 同行執行役員営業第十四部長 平成20年4月 ㈱みずほ銀行常務執行役員 平成24年4月 当社常務執行役員 平成25年4月 当社専務執行役員 平成27年4月 当社副社長執行役員 平成29年6月 当社代表取締役副社長兼副社長執 行役員(現任)	(注)3	26
専務取締役 (代表取締役)	コンプライア ンス統括責任 者(CCO) 兼ITシステ ム統括責任者 (CIO)兼リ スク管理統括 責任者(CRO) 兼CSR 統括責任者	倉中 伸	昭和32年10月5日	昭和56年4月 ㈱日本興業銀行入行 平成18年3月 ㈱みずほコーポレート銀行 キャリア戦略部長 平成19年5月 ㈱みずほフィナンシャルグループ 人事部長 平成21年4月 ㈱みずほフィナンシャルグループ 執行役員人事部長 平成22年4月 ㈱みずほ銀行常務取締役 平成24年4月 同行常務執行役員 平成25年4月 当社専務執行役員、CCO兼 CIO兼CSR統括責任者委嘱 平成25年6月 当社代表取締役専務兼専務執行 役員、CCO兼CIO兼CSR 統括責任者委嘱 平成29年4月 当社代表取締役専務兼専務執行 役員、CCO兼CIO兼CRO兼 CSR統括責任者委嘱(現任)	(注)3	15

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
常務取締役	財務統括責任者(CFO)	丸山 伸一郎	昭和35年11月11日	昭和59年4月 ㈱日本興業銀行入行 平成14年4月 ㈱みずほコーポレート銀行 国際為替部次長 平成17年6月 同行営業第十一部次長 平成19年4月 ㈱みずほフィナンシャルグループ 経営企画部次長 平成21年4月 ㈱みずほコーポレート銀行 業務管理部副部長 平成22年4月 同行営業第十四部長 平成24年4月 同行執行役員大企業法人ユニット 長付審議役 平成24年6月 当社執行役員企画部長 平成25年6月 当社取締役兼執行役員、企画 部長委嘱 平成27年4月 当社常務取締役兼常務執行役員、 経営企画部長委嘱 平成27年6月 当社常務取締役兼常務執行役員、 業務部長委嘱 平成29年4月 当社常務取締役兼常務執行役員 平成30年2月 当社常務取締役兼常務執行役員、 CFO委嘱(現任)	(注)3	13
常務取締役		瀧本 真矢	昭和35年6月20日	昭和60年4月 ㈱日本興業銀行入行 平成17年5月 ㈱みずほコーポレート銀行 業務管理部次長 平成20年4月 同行営業第五部次長 平成22年4月 同行業務管理部副部長 平成23年4月 同行大阪営業第一部長 平成25年4月 同行営業第五部長 平成25年7月 ㈱みずほ銀行営業第五部長 平成26年4月 同行執行役員営業第五部長 平成27年4月 当社執行役員 平成27年6月 当社取締役兼執行役員、経営企画 部長委嘱 平成28年4月 当社常務取締役兼常務執行役員、 経営企画部長委嘱 平成29年4月 当社常務取締役兼常務執行役員 (現任)	(注)3	5
常務取締役		上田 晃	昭和32年9月15日	昭和55年4月 当社入社 平成13年5月 当社業務部副部長 平成13年12月 当社東京営業第二部長 平成17年3月 当社人事部長 平成18年4月 当社執行役員人事部長 平成24年4月 当社常務執行役員人事部長 平成28年4月 当社常務執行役員 平成28年6月 当社常務取締役兼常務執行役員 (現任)	(注)4	55

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役		小峰 隆夫	昭和22年3月6日	昭和44年7月 経済企画庁入庁 平成10年6月 同庁物価局長 平成11年7月 同庁調査局長 平成13年1月 国土交通省国土計画局長 平成15年4月 法政大学大学院政策科学専攻教授 平成20年4月 同大学院政策創造研究科教授 平成21年6月 当社取締役(非常勤)(現任) 平成22年4月 公益社団法人日本経済研究センター研究顧問 平成24年5月 公益社団法人日本経済研究センター理事研究顧問(現任) 平成26年12月 公益財団法人家計経済研究所会長 平成29年4月 大正大学地域創生学部教授(現任)	(注)3	23
取締役		桐山 正敏	昭和24年4月22日	昭和47年4月 通商産業省入省 平成元年6月 宮崎県商工労働部長 平成4年6月 通商産業省生活産業局通商課長 平成12年6月 参議院法制局第四部長 平成17年12月 参議院決算委員会調査室長 平成21年8月 省エネルギーセンター監事 平成23年4月 帝京大学法学部教授 平成27年6月 一般社団法人日本化学品輸出入協会専務理事 平成29年6月 当社取締役(非常勤)(現任)	(注)3	1
取締役		杉浦 康之	昭和28年9月25日	昭和53年4月 三菱商事(株)(以下、同社)入社 平成10年3月 米国三菱商社会社ワシントン事務所長 平成15年1月 同社国際戦略研究所長 平成16年4月 同社業務部長 平成18年4月 米国三菱商社会社CFO兼コーポレート部門担当SVP 平成20年4月 同社広報部長 平成21年4月 同社執行役員経営企画本部広報部長 平成24年4月 米国三菱商社会社取締役社長(ニューヨーク) 平成25年4月 同社常務執行役員、北米三菱商社会社取締役社長(ニューヨーク) 平成28年4月 同社顧問(現任) 平成28年6月 公益財団法人東洋文庫理事 平成29年6月 公益財団法人東洋文庫専務理事(現任) 当社取締役(非常勤)(現任) センコーグループホールディングス(株)取締役(現任)	(注)3	3
常勤監査役		形山 成朗	昭和31年9月3日	昭和55年4月 (株)日本興業銀行入行 平成15年2月 (株)みずほコーポレート銀行ミラノ支店長 平成16年3月 同行市場事務部長 平成17年1月 同行事務統括部長 平成19年4月 同行IT・システム統括部長 平成20年4月 同行執行役員IT・システム統括部長 平成23年4月 みずほ証券(株)常務執行役員IT本部長 平成26年6月 日本証券テクノロジー(株)専務取締役 平成27年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)5	11

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
常勤監査役		宮口 丈人	昭和31年4月9日	昭和55年4月 ㈱日本興業銀行入行 平成17年4月 ㈱みずほコーポレート銀行 北京支店長 平成19年4月 同行執行役員中国現地法人設立準備委員会委員長 平成19年6月 同行執行役員、みずほコーポレート銀行(中国)有限公司副董事長兼行長 平成24年4月 同行理事、みずほコーポレート銀行(中国)有限公司審議役 平成24年6月 同行理事、みずほコーポレート銀行(中国)有限公司董事長 平成27年10月 みずほ総合研究所㈱顧問 みずほ銀行(中国)有限公司顧問 平成29年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)6	1
監査役		高橋 真一	昭和33年9月5日	昭和59年4月 第一東京弁護士会登録、西村あさひ法律事務所弁護士(現任) 平成2年9月 ニューヨーク市シンプソン・サッチャー・アンド・パートレット法律事務所入所 平成3年6月 ニューヨーク州弁護士会登録 平成8年9月 ロイズ・ジャパン㈱監査役 平成13年4月 第百生命保険相互会社清算人 平成29年6月 当社監査役(現任)	(注)6	-
監査役		野口 亨	昭和30年5月18日	昭和54年4月 第一生命保険(相)入社 平成18年4月 興銀第一ライフ・アセットマネジメント㈱常務取締役 平成23年4月 D I A Mアセットマネジメント㈱専務取締役 平成28年10月 アセットマネジメントOne㈱取締役常務執行役員機関投資家営業本部長 平成30年4月 資産管理サービス信託銀行㈱理事 平成30年6月 資産管理サービス信託銀行㈱代表取締役副社長(現任) 当社監査役(現任)	(注)7	-
計						160

- (注) 1. 取締役小峰隆夫、桐山正敏及び杉浦康之は、社外役員(会社法施行規則第2条第3項第5号)に該当する社外取締役(会社法第2条第15号)であります。
2. 常勤監査役形山成朗及び宮口丈人、監査役高橋真一及び野口亨は、社外役員(会社法施行規則第2条第3項第5号)に該当する社外監査役(会社法第2条第16号)であります。
3. 平成29年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から2年間。
4. 平成30年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から2年間。
5. 平成27年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。
6. 平成29年6月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。
7. 平成30年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

・企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

上場会社の企業活動は、長期かつ継続的に株主にとっての企業価値を高めることを主要な目的として行われますが、それに際しては、株主と経営者の関係の規律付けを中心とした企業活動を律する枠組み、すなわちコーポレート・ガバナンス（企業統治）を有効に機能させていくことが必要不可欠であり、そのための環境を整えることがコーポレート・ガバナンスの基本的な目的であると認識しております。

また、上場会社におけるコーポレート・ガバナンスに求められることは、まず、株主の権利・利益を保護し、持分に応じた平等を保障すること、次に、役割を増している、顧客、従業員、取引先など株主以外の様々なステークホルダー（利害関係者）について権利・利益の尊重と円滑な関係を構築すること、そしてこれら利害関係者の権利・利益が現実を守られるために、適時適切な情報開示により企業活動の透明性を確保すること、最後に、取締役会・監査役（会）が適切に監督・監査機能を果たすことが重要と認識しております。このような認識のもと、当社の企業統治の体制は以下のとおりであります。

<取締役会及び執行役員>

取締役会は、取締役9名で構成され、うち3名を独立性を有する社外取締役とすることで取締役会の監督機能と意思決定の適正の確保を図っております。

取締役会の決定に基づき迅速かつ効率的に業務を執行するため、執行役員制度を採用し、社長以下に業務執行権限を委譲しております。さらに、迅速で適切な組織的意思決定を行える体制を確保すべく、執行サイドの最高意思決定機関として経営会議を置くとともに、経営会議の下に機能毎の各政策委員会・協議会を設置しております。

<監査役監査>

監査役（会）は、4名（内、社外監査役4名）により、取締役会その他における取締役の意思決定及び業務執行全般にわたり、取締役の忠実義務・善管注意義務等の法的義務の履行状況及び業務の適正な執行等を監査しております。

監査役は、監査役監査の実効性を確保するため、取締役会など重要な会議に出席するほか、代表取締役と定期的に会合し監査上の重要課題について意見を交換しております。また、効率的な監査を実施するため内部監査部門である業務監査部と緊密な連携を保ち、監査の計画と結果について定期的に報告を受けております。さらに、監査役（会）は、会計監査人と定期的な会合をもつなど緊密な連携を保ち、会計監査人の監査活動の報告を聴取するとともに情報交換を図ることで、監査の効率と質の向上に努めております。

常勤社外監査役山成朗氏及び常勤社外監査役宮口丈人氏は、長年にわたり金融業務に従事しており、財務及び会計に関する十分な知見を有しております。

<内部監査>

社長直轄の業務監査部（10名）を設置し、業務執行の適切性及び効率性、コンプライアンスの状況等について内部監査を実施し、業務改善に資するよう、具体的な助言勧告、提案を行っております。また、監査役（会）及び会計監査人と必要な連携をとっております。監査結果は定期的に取締役会に報告され、経営として、各種リスク回避に必要な体制・組織・規則等の改善の可否を判断しております。

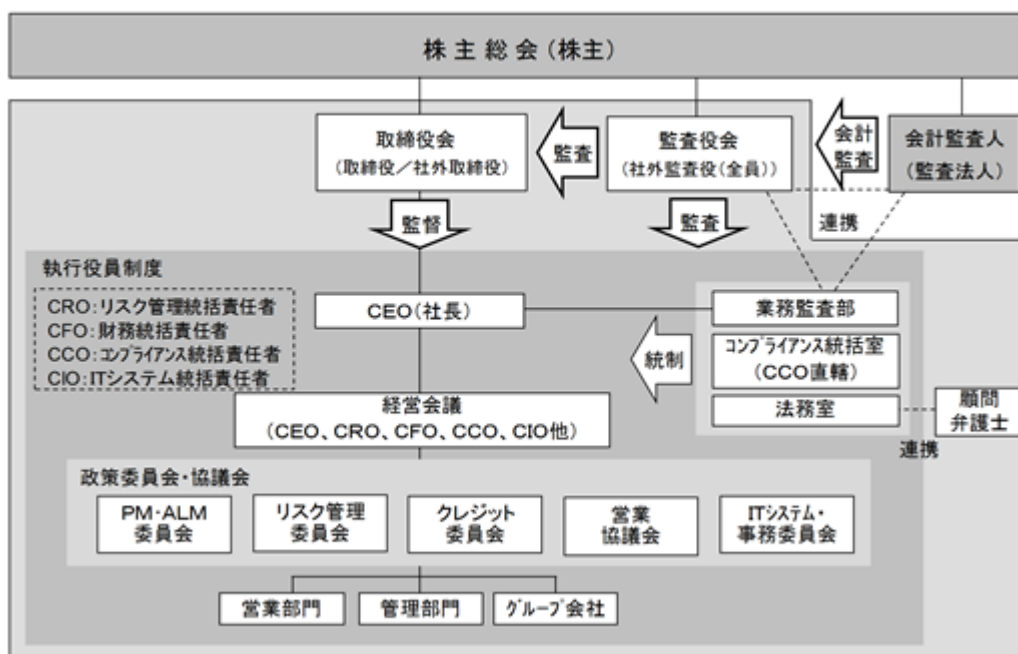
<コンプライアンス体制>

コンプライアンスを推進するため、「コンプライアンス統括責任者（CCO）」及び「コンプライアンス統括室」を設置しております。コンプライアンス統括室の指示に従い各部署の長がコンプライアンス責任者としてチェックを行うとともに、内部監査部門である業務監査部が二次チェックを行っております。また、コンプライアンス統括室は各部署から報告を受けた事項について、都度その内容をCCO及び監査役に報告し意見交換を実施する等必要な連携をとるとともに、コンプライアンスの状況を定期的に取締役会に報告しております。

<その他>

コーポレート・ガバナンスの充実の観点から、社内の法務チェックに加え、必要に応じ法律事務所等の外部専門家よりアドバイスまたは重要事項については意見書を徴し、法務面でのチェック及びリスク回避のための対応を確保・強化しております。

<コーポレート・ガバナンスの枠組図>



・内部統制システムの整備の状況

当社は、業務の適正な執行を確保するための体制を整備し、これを有効かつ適切に運用していくことが、経営の重要な責務であると認識しております。

こうした認識に基づき、会社法第362条第4項第6号及び同条第5項並びに会社法施行規則第100条第1項及び同条第3項の規定に従って、以下のとおり「内部統制システムの整備に関する基本方針」（以下、「本方針」といいます。）を定め、これを有効かつ適切に運用しております。

また、今後とも、内外の環境変化に即し、内部統制システムとして一層適切なものとなるよう充実を図ってまいります。

「内部統制システムの整備に関する基本方針」

1. 当社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、取締役及び社員等が法令及び定款に適合し、社会的規範にもとることのない誠実かつ公正な職務の執行を行うため、「コンプライアンス規程」を制定するとともに、「コンプライアンス統括責任者（CCO）」及び「コンプライアンス統括室」を設置して、コンプライアンス体制を整備している。

具体的には、以下の諸施策を講ずることにより、コンプライアンス体制の実効性を確保する。

「興銀リースグループの企業行動規範」を定めるとともに、具体的手引書として「コンプライアンス・マニュアル」を制定し、遵守の徹底を図る。この「興銀リースグループの企業行動規範」には反社会的勢力の排除に向けた対応を規定する。

毎年「コンプライアンス・プログラム」を策定し、それに即した教育・研修等を通じて、コンプライアンス態勢の浸透を図る。

社長直轄の業務監査部が、内部監査の実施を通じて、コンプライアンスの状況を調査・検証し、その報告に基づいて、所要の措置をとる仕組みを構築する。

社内通報制度として、コンプライアンス等に係る相談・報告窓口を設置するとともに、当該制度を実効あらしめるため、「内部通報者保護規程」を制定する。

また当社は、財務報告に係る内部統制の整備及び企業の社会的責任（CSR）経営の組織的・継続的取り組みを推進する。

2. 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、取締役及び社員等の職務の執行に係る以下の文書（電磁的記録を含む。）その他の重要な情報について、「情報管理規程」、「文書管理規程」、「記録管理規程」に基づき、保存年限を各別に定め、適切に保存しかつ管理する。

株主総会議事録と関連資料

取締役会議事録と関連資料

取締役が主催するその他の重要な会議の議事の経過の記録又は指示事項と関連資料

取締役を決議者とする決裁書類及び付属書類

3. 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、全社的な視点からリスク管理を統括する「リスク管理統括責任者（CRO）」を設置し、経営に重大な影響を及ぼす虞のある様々なリスクについて、「リスク管理委員会」において状況把握及び評価・モニタリングを行う。

当社は、「総合リスク管理規程」において、管理すべきリスクを定量リスク（フィナンシャルリスク）と定性リスク（オペレーショナルリスク）に分ける。定量リスクは、信用リスク・市場リスク・価格変動リスクに区分し、定性リスクは、事務リスク、システムリスク、人的・災害リスク、コンプライアンスリスク等に区分する。

信用リスクについては、取引先信用格付制度を基礎に、リスクをコントロールする。

案件審査のほか、期中においても、金融庁の金融検査マニュアルに準じた厳格な資産査定を行い、所要の償却・引当を実施するなど、信用リスクを適切にコントロールするとともに、資産の健全性の確保に努める。

市場リスクについては、「PM・ALM委員会」において、市場金利の動向や資産・負債の対応状況等を総合的に判断のうえ、リスクを適切にコントロールする。

価格変動リスクについては、各対象マーケットの価格動向を定期的にモニタリングし、管理を行う。

事務リスクについては、ISO9001の認証を継続するとともに、「品質マニュアル」を定め、事務の正確性、迅速性等の事務品質の維持・向上に努める。

ITシステム等に係るリスクについては、情報セキュリティポリシーを明確化した「情報管理規程」を基礎とした管理体系を構築し、「ITシステムセキュリティ管理規程」、「ITシステム運用管理規程」を定め、その信頼性・安全性を確保するとともに、障害時においては、「ITシステム等の障害時における事務対策要綱」に基づき、適切な対応を行う。

人的・災害等に係るリスクについては、「災害対策要綱」、「緊急対策要綱」等を定め、当社グループにおける人命の安全と事業の継続を確保するための体制を整備するとともに、非常事態発生時には迅速かつ適切に対応する。

コンプライアンスリスクについては、「コンプライアンス規程」等の定めにより、コンプライアンス体制の整備を図る。

その他のリスクについては、「総合リスク管理規程」等の定めに基づいて、適切に状況把握及び対応を行う。

4. 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、取締役の職務の遂行を効率化するため、監督（取締役会）と執行（経営会議等）の役割を明確化する。

取締役会の役割について、重心を監督機能と戦略的議論を行う場とする。執行については、執行役員制度を採用し、各々の業務執行においては、決裁者を定め責任の明確化を図る。また、決裁者の判断支援と相互牽制を確保するため、経営会議・各政策委員会を設置し、その運営により、迅速で適切な組織的意思決定を行える体制を確保する。

5. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社グループにおける業務の適正を確保するため、「グループ会社経営管理規程」を制定する。

各グループ会社の機能毎の指導・支援・管理は、当社の機能部門が各グループ会社の同一機能部門と連携して行い、経営企画部を責任部門として、適切な統括管理を実施する。

当社の主要なグループ会社については、「本方針」に従い、各社の「内部統制システムの整備に関する基本方針」を定め、これを遵守させるものとする。

主要なグループ会社に対しては、当社業務監査部が定期的に内部監査を実施するほか、当社監査役の求めにより、当社及び主要グループ会社の監査役連絡会（興銀リースグループ監査役連絡会）に対する必要な情報の提供等を通じて、当社グループの業務の適正を確保する。

6. 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当社は、監査役の求めにより、監査役の職務を補助する適切な人材を配置する。

7. 前号の使用人の当社の取締役からの独立性及び当社の監査役の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
当社は、監査役職務を補助する社員等について、職務執行の適切性を確保するため、その人事考課、異動等は監査役の意見を徴し、これを尊重する。
8. 取締役及び使用人が当社の監査役に報告をするための体制その他の当社の監査役への報告に関する体制
当社は、監査役職務の適切な執行のため、定期的開催される取締役会等の重要な会議において随時業務の執行状況及び結果について報告を行うほか、当社及びグループ会社の取締役が主催するその他の重要な会議については、議事の経過及び結果を適宜報告する。
社内通報制度として、監査役へのホットラインを設置する。
監査役へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保する。
9. その他当社の監査役職務の監査が実効的に行われることを確保するための体制
当社は、監査役職務の適切な執行のため、監査役と業務監査部等との関係が適切に行えるよう協力する。また、監査役と主要なグループ会社の取締役等との意思疎通、情報交換が適切に行えるよう協力する。
当社は、監査役職務の執行にあたり、監査役が必要と認めた場合に、法律事務所、監査法人等の外部専門家との関係を図る環境を整備する。
監査役は、取締役と監査実施状況についての意思疎通を図るため、定期的な会合を設ける。
10. 当社の監査役職務の執行について生ずる費用等の処理に関する事項
当社は、監査役職務の執行について生ずる必要な費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務について、監査役の請求等に従い処理を行う。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は取締役9名中次のとおり3名であります。

社外取締役 小峰 隆夫
社外取締役 桐山 正敏
社外取締役 杉浦 康之

社外取締役小峰隆夫氏は、当社の株式を所有（当有価証券報告書「第4 提出会社の状況 5. 役員状況」に記載）しておりますが、当社グループ並びに当社グループの役員との間に特別な利害関係はありません。

同氏は、学校法人大正大学教授であります。当社グループと同法人の間にはリース等の取引がありますが、当社グループの資産規模において特別な重要性はなく、独立性に影響を及ぼすものではありません。

また、同氏は、公益社団法人日本経済研究センター理事研究顧問であります。当社グループと同法人との間に利害関係はありません。

また、過去に、同氏は、学校法人法政大学大学院教授でありました。当社グループと同法人の間にはリース等の取引がありますが、当社グループの資産規模において特別な重要性はなく、独立性に影響を及ぼすものではありません。

社外取締役桐山正敏氏は、当社の株式を所有（当有価証券報告書「第4 提出会社の状況 5. 役員状況」に記載）しておりますが、当社グループ並びに当社グループの役員との間に利害関係はありません。

また、過去に、同氏は、一般社団法人日本化学品輸出入協会専務理事、省エネルギーセンター監事及び学校法人帝京大学教授でありました。当社グループとこれらの法人との間に利害関係はありません。

社外取締役杉浦康之氏は、当社の株式を所有（当有価証券報告書「第4 提出会社の状況 5. 役員状況」に記載）しておりますが、当社グループ並びに当社グループの役員との間に利害関係はありません。

同氏は、三菱商事株式会社顧問であります。当社グループと同社の企業グループとの間にはリース等の取引がありますが、当該取引は市場金利等の状況を考慮し一般の取引条件と同様に決定しており、独立性に影響を及ぼすものではありません。

同氏は、公益財団法人東洋文庫専務理事及びセンコーグループホールディングス株式会社社外取締役であります。当社グループと同法人との間に利害関係はありません。

また、過去に、同氏は、三菱商事株式会社常務執行役員、米国三菱商事会社取締役社長及び北米三菱商事会社取締役社長でありました。前記のとおり当社グループとこれらの法人の企業グループとの間にリース等の取引が

ありますが、当該取引は市場金利等の状況を考慮し一般の取引条件と同様に決定しており、独立性に影響を及ぼすものではありません。

当社の監査役は4名全て社外監査役であります。

社外監査役 形山 成朗（常勤）
社外監査役 宮口 丈人（常勤）
社外監査役 高橋 真一（非常勤）
社外監査役 野口 亨（非常勤）

社外監査役形山成朗氏は、当社の株式を所有（同「第4 提出会社の状況 5. 役員の状況」に記載）しておりますが、当社グループ並びに当社グループの役員との間に特別な利害関係はありません。

同氏は、過去に、株式会社みずほフィナンシャルグループの企業グループに属する株式会社みずほコーポレート銀行（現株式会社みずほ銀行）執行役員、みずほ証券株式会社常務執行役員並びに同社の関係会社である日本証券テクノロジー株式会社専務取締役でありました。当社は、株式会社みずほフィナンシャルグループの株式を所有（同「第4 提出会社の状況 6. コーポレート・ガバナンスの状況等 株式の保有状況」に記載）しているとともに、日本証券テクノロジー株式会社の株式を所有しております。また、株式会社みずほ銀行は、当社の株式を所有（同「第4 提出会社の状況 1. 株式等の状況 (6)大株主の状況」に記載）しているとともに、当社に使用人等を派遣しています。その他、当社グループと株式会社みずほフィナンシャルグループの企業グループとの間には資金の借入やリース等の取引がありますが、これらの取引は市場金利等の状況を考慮し一般の取引条件と同様に決定しており、独立性に影響を及ぼすものではありません。

社外監査役宮口丈人氏は、当社の株式を所有（同「第4 提出会社の状況 5. 役員の状況」に記載）しておりますが、当社グループ並びに当社グループの役員との間に利害関係はありません。

同氏は、過去に、株式会社みずほフィナンシャルグループの企業グループに属する株式会社みずほコーポレート銀行（現株式会社みずほ銀行）執行役員、同行関係会社のみずほコーポレート銀行（中国）有限公司行長及び董事長、株式会社みずほ銀行理事、みずほ総合研究所株式会社顧問並びにみずほ銀行（中国）有限公司顧問でありました。当社は、株式会社みずほフィナンシャルグループの株式を所有（同「第4 提出会社の状況 6. コーポレート・ガバナンスの状況等 株式の保有状況」に記載）し、株式会社みずほ銀行は、当社の株式を所有（同「第4 提出会社の状況 1. 株式等の状況 (6)大株主の状況」に記載）しているとともに、当社に使用人等を派遣しております。その他、当社グループと株式会社みずほフィナンシャルグループの企業グループとの間には資金の借入やリース等の取引がありますが、これらの取引は市場金利等の状況を考慮し一般の取引条件と同様に決定しており、独立性に影響を及ぼすものではありません。

社外監査役高橋真一氏は、当社グループ並びに当社グループの役員との間に利害関係はありません。

同氏は、西村あさひ法律事務所弁護士であります。当社グループと同事務所の間において、当社から相談業務等に係る報酬等の支払いがありますが、当社グループ並びに同事務所の資産規模において特別な重要性はなく、独立性に影響を及ぼすものではありません。

社外監査役野口亨氏は、当社グループ並びに当社グループの役員との間に利害関係はありません。

同氏は、資産管理サービス信託銀行株式会社代表取締役副社長であります。当社グループと同法人との間に利害関係はありません。

また、過去に、同氏は、興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社（現アセットマネジメントOne株式会社）常務取締役、DIAMアセットマネジメント株式会社（現アセットマネジメントOne株式会社）専務取締役、並びに、アセットマネジメントOne株式会社取締役常務執行役員でありました。当社グループとこれらの法人の間にはリース等の取引がありますが、当社グループの資産規模において特別な重要性はなく、独立性に影響を及ぼすものではありません。

当社は、社外取締役及び社外監査役の独立性基準を以下のとおり定め、社外取締役及び社外監査役（いずれもその候補者を含む）が以下に掲げる項目のいずれかに該当する場合、十分な独立性を有していないものとみなします。

1. 当社を主要な取引先とする者、又はその者が法人等（法人以外の団体を含む。以下同じ）である場合は、その業務執行者
2. 当社の主要な取引先である者、又はその者が法人等である場合は、その業務執行者
3. 当社から多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家又は法律専門家（これらが法人等である場合、所属する者）

4. 1 から 3 のいずれかに該当する者の近親者
5. 当社の子会社の業務執行者の近親者
6. 最近において 1 から 5 のいずれかに該当していた者及びその近親者
7. 最近において当社の業務執行者に該当していた者の近親者
8. 前各項の定めにかかわらず、その他、当社と利益相反関係が生じ得る特段の事由が存在すると認められる者

当社の社外取締役小峰隆夫氏、桐山正敏氏及び杉浦康之氏の 3 名並びに社外監査役形山成朗氏、宮口丈人氏、高橋真一氏及び野口亨氏の 4 名につきましては、当社の経営における独立性が確保され、職務遂行において当社経営陣との間に相互に影響を及ぼし得る関係になく、独立した立場から中立・公正に職務を遂行していただけると判断し選任しております。社外取締役においては、企業経営や専門分野等の豊富な経験と幅広い見識を活かし、客観的な視点から経営全般に的確な助言をいただいております。社外監査役においては、企業経営や専門分野における豊富な経験と高い専門性を当社の監査業務に活かしていただいております。

社外取締役は取締役会に出席し内部監査部門及び内部統制部門から定期的に業務執行の適切性やコンプライアンスの状況等の報告を受けるほか、必要に応じて取締役会の議案について所管部署から事前説明を受ける等、経営監督機能の実効性を確保しております。

また、社外監査役（非常勤）は常勤監査役から定期的に監査状況の報告を受け、豊富な経験や高い専門性から監査上の重要課題について発言をしております。また、取締役会に出席し内部監査部門及び内部統制部門から定期的に業務執行の適切性やコンプライアンスの状況等の報告を受けるほか、必要に応じて取締役会の議案について所管部署から事前説明を受ける等、監査の実効性を確保しております。

社外取締役及び社外監査役との責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役及び非常勤の社外監査役との間に、同法第423条第1項の賠償責任を法令の定める限度まで限定する旨の契約を締結しております。

なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役又は非常勤の社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

役員報酬等

(a)役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額	報酬等の種類別の総額	対象となる役員の員数
		基本報酬	
取締役（社外取締役を除く。）	260百万円	260百万円	6名
監査役（社外監査役を除く。） （注）1	5百万円	5百万円	1名
社外役員（注）2	82百万円	82百万円	9名

（注）1. 当事業年度末日までに退任した監査役 1 名を含んでおります。

2. 当事業年度末日までに退任した社外役員 2 名を含んでおります。

(b) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の取締役及び監査役の報酬については、株主総会の決議に基づき、取締役全員及び監査役全員のそれぞれの報酬総額に上限を定めております。

取締役（社外取締役を除く）の報酬については、職位・職責に応じた業績連動型報酬とし、また、社外取締役並びに監査役の報酬については、職責に応じた月額確定報酬としております。

各取締役の報酬額は、取締役会で決議された方法により決定され、各監査役の報酬額は、監査役の協議により決定しております。

また、平成30年6月26日開催の第49回定時株主総会決議により、取締役（取締役会長及び社外取締役を除く）及び取締役を兼務しない執行役員の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にすることで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献し、ひいては、株式価値を高める意識を株主の皆様と共有することを目的として、業績連動型株式報酬制度を導入いたしました。

なお、本制度の詳細につきましては、「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況（8）役員・従業員株式所有制度の内容」に記載のとおりです。

株式の保有状況

(a) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
105銘柄 20,832百万円

(b)保有目的が純投資目的以外の目的である特定投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度（平成29年3月31日現在）

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
ユニゾホールディングス(株)	883,000	2,425	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
日東紡績(株)	2,059,000	1,140	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
生化学工業(株)	589,968	1,094	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	4,473,300	912	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大、並びに資金調達の安定化のため
三菱鉛筆(株)	154,000	859	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
愛知時計電機(株)	164,200	616	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
DOWAホールディングス(株)	736,050	590	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)滋賀銀行	1,018,000	581	発行会社及び同社グループ各社との関係強化、並びに資金調達の安定化のため
理研計器(株)	302,000	511	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
大日精化工業(株)	537,000	404	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
オイレス工業(株)	173,400	355	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)リケン	58,900	289	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
ニチレキ(株)	304,000	276	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
飯野海運(株)	550,000	267	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)安永	158,300	256	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
キッセイ薬品工業(株)	83,053	242	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)クレディセゾン	120,000	238	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)岡三証券グループ	307,000	208	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)東京TYフィナンシャルグループ (注)	59,681	199	発行会社及び同社グループ各社との関係強化、並びに資金調達の安定化のため
(株)エスケーエレクトロニクス	150,000	177	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
長野計器(株)	199,663	143	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
東ソー(株)	132,000	129	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
富士急行(株)	120,000	118	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
大興電子通信(株)	517,569	112	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
バンドー化学(株)	100,000	98	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)パイオラックス	36,300	92	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)SCREENホールディングス	10,000	81	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)リンコーコーポレーション	393,000	75	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
朝日工業(株)	55,100	73	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)三重銀行	30,000	70	発行会社及び同社グループ各社との関係強化、並びに資金調達の安定化のため

(注) (株)東京TYフィナンシャルグループは、平成30年5月1日付で(株)東京きらぼしフィナンシャルグループに商号変更しております。

当事業年度（平成30年3月31日現在）

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
ユニゾホールディングス(株)	883,000	2,277	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
生化学工業(株)	589,968	1,144	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
日東紡績(株)	411,800	929	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	4,473,300	856	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大、並びに資金調達の安定化のため
三菱鉛筆(株)	308,000	738	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
理研計器(株)	302,000	700	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
愛知時計電機(株)	164,200	683	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
大興電子通信(株)	517,569	637	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
DOWAホールディングス(株)	147,210	560	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)滋賀銀行	1,018,000	545	発行会社及び同社グループ各社との関係強化、並びに資金調達の安定化のため
大日精化工業(株)	107,400	471	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
オイレス工業(株)	173,400	392	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)エスケーエレクトロニクス	150,000	387	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
ニチレキ(株)	304,000	373	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)安永	158,300	371	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)リケン	58,900	352	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)西松屋チェーン	234,500	281	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
飯野海運(株)	550,000	279	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)岡三証券グループ	420,000	267	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
長野計器(株)	199,663	241	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
キッセイ薬品工業(株)	83,053	238	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)クレディセゾン	120,000	209	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
富士急行(株)	60,000	167	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)東京TYフィナンシャルグループ (注)	59,681	151	発行会社及び同社グループ各社との関係強化、並びに資金調達の安定化のため
東ソー(株)	66,000	137	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
バンドー化学(株)	100,000	121	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
石原ケミカル(株)	43,120	102	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)パイオラックス	36,300	101	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
(株)SCREENホールディングス	10,000	97	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため
東北特殊鋼(株)	37,000	73	発行会社及び同社グループ各社との関係強化と取引機会の拡大のため

(注) (株)東京TYフィナンシャルグループは、平成30年5月1日付で(株)東京きらぼしフィナンシャルグループに商号変更しております。

(c)保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

区分	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)			
	貸借対照表計上 額の合計額	貸借対照表計上 額の合計額	受取配当金の 合計額	売却損益の 合計額	評価損益の 合計額
非上場株式	5,951	6,692	142	13	1,192
上記以外の株式	-	-	-	-	-

会計監査の状況

当社の会計監査につきましては、有限責任監査法人トーマツを選任し、会社法並びに金融商品取引法に基づく監査が実施されており、監査役（会）が同監査法人の監査の方法及び結果の相当性を評価しております。

当期の会計監査業務を執行した公認会計士の氏名等につきましては次のとおりであります。また、監査業務に係る補助者の構成は、監査法人の選定基準に基づき公認会計士等から構成されております。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
指定有限責任社員 業務執行社員 吉田 波也人	有限責任監査法人トーマツ
指定有限責任社員 業務執行社員 野根 俊和	有限責任監査法人トーマツ

(注) 継続監査年数については7年以内であるため、記載を省略しております。

取締役の定数及び取締役の選任の決議要件

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。また、当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、並びに、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができるとした事項

< 自己の株式の取得 >

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

< 取締役及び監査役の実任免除 >

当社は、取締役及び監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を積極的かつ十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって法令の定める限度内において取締役（取締役であったものを含む）及び監査役（監査役であったものを含む）の責任を免除することができる旨を定款に定めております。

< 中間配当 >

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日とした中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

アカウントビリティ

当社は、株主をはじめとするステークホルダー（利害関係者）の権利・利益を守るため、広く情報公開に努め、適時適切で公平な情報開示を行い、企業活動の透明性を確保していくことが重要であると認識しております。

そのための社内体制として、経営企画部が内部情報を一元管理するとともに、経営企画部内にコーポレートコミュニケーション室を設置し、ステークホルダーに向けた有用かつ主体的な情報発信や積極的な対話の実現に向けた体制整備を図っております。なお、情報開示に際しては、定量的な情報に加え、定性的な情報の充実に努めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	82	7	83	6
連結子会社	39	-	41	-
計	122	7	124	6

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社であるPT. IBJ VERENA FINANCEは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているSatrio Bing Eny & Rekanに対して、監査報酬を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社であるPT. IBJ VERENA FINANCEは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているSatrio Bing Eny & Rekanに対して、監査報酬を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社は、公認会計士法第2条第1項以外の業務として、コンフォートレター作成業務等を委託しております。

(当連結会計年度)

当社は、公認会計士法第2条第1項以外の業務として、国際会計税務に係る助言業務を委託しております。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）及び「特定金融会社等の会計の整理に関する内閣府令」（平成11年5月19日総理府・大蔵省令第32号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、公益財団法人財務会計基準機構等の行う研修に参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	42,326	30,337
受取手形及び売掛金	486	363
割賦債権	138,089	138,851
リース債権及びリース投資資産	2,809,304	2,823,384
営業貸付金	2,6205,206	2,6230,405
その他の営業貸付債権	139,749	125,538
営業投資有価証券	4,172,493	2,4196,860
その他の営業資産	3,130	4,130
賃貸料等未収入金	4,028	4,289
有価証券	44	520
繰延税金資産	1,874	1,595
その他	53,000	50,030
貸倒引当金	3,130	2,265
流動資産合計	1,566,603	1,604,039
固定資産		
有形固定資産		
賃貸資産		
賃貸資産	1,2140,913	1,2160,100
賃貸資産前渡金	311	5,858
賃貸資産合計	141,225	165,959
その他の営業資産		
その他の営業資産	-	1,388
その他の営業資産前渡金	-	1,873
その他の営業資産合計	-	5,762
社用資産		
社用資産	2,986	2,992
社用資産合計	1,2986	1,2992
有形固定資産合計	144,211	174,714
無形固定資産		
賃貸資産		
賃貸資産	101	105
賃貸資産合計	101	105
その他の無形固定資産		
のれん	168	133
ソフトウェア	3,443	3,362
その他	475	713
その他の無形固定資産合計	4,087	4,209
無形固定資産合計	4,189	4,315
投資その他の資産		
投資有価証券	4,28,248	2,430,039
破産更生債権等	3,331	2,440
繰延税金資産	975	631
その他	5,068	5,491
貸倒引当金	343	171
投資その他の資産合計	37,280	38,432
固定資産合計	185,681	217,462
資産合計	1,752,284	1,821,501

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	53,400	8 54,383
短期借入金	7 312,715	2, 7 270,743
1年内償還予定の社債	-	20,000
1年内返済予定の長期借入金	2 155,509	2 182,054
コマーシャル・ペーパー	433,800	453,800
債権流動化に伴う支払債務	5 59,180	5 63,621
リース債務	7,329	7,251
未払法人税等	1,200	2,015
割賦未実現利益	268	258
賞与引当金	572	784
役員賞与引当金	62	67
債務保証損失引当金	68	27
その他	21,657	27,136
流動負債合計	1,045,764	1,082,143
固定負債		
社債	58,000	38,000
長期借入金	2 455,312	2 466,824
債権流動化に伴う長期支払債務	5 17,919	5 41,196
退職給付に係る負債	2,533	2,410
受取保証金	25,623	29,126
その他	5,375	7,167
固定負債合計	564,764	584,725
負債合計	1,610,529	1,666,869
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,874	17,874
資本剰余金	16,086	16,070
利益剰余金	94,319	105,148
自己株式	1	1
株主資本合計	128,279	139,092
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,036	9,047
繰延ヘッジ損益	24	141
為替換算調整勘定	348	621
退職給付に係る調整累計額	116	48
その他の包括利益累計額合計	8,292	9,859
非支配株主持分	5,183	5,681
純資産合計	141,755	154,632
負債純資産合計	1,752,284	1,821,501

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	429,405	399,738
売上原価	390,198	361,541
売上総利益	39,206	38,197
販売費及び一般管理費	1 21,244	1 19,034
営業利益	17,962	19,162
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	506	516
持分法による投資利益	212	124
投資収益	357	445
その他	149	82
営業外収益合計	1,229	1,171
営業外費用		
支払利息	268	308
社債発行費	106	3
その他	27	57
営業外費用合計	402	369
経常利益	18,789	19,964
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	266	586
特別利益合計	266	586
特別損失		
投資有価証券評価損	162	16
減損損失	2 39	-
特別損失合計	201	16
税金等調整前当期純利益	18,854	20,535
法人税、住民税及び事業税	5,864	5,380
法人税等調整額	374	984
法人税等合計	6,239	6,365
当期純利益	12,615	14,169
非支配株主に帰属する当期純利益	201	526
親会社株主に帰属する当期純利益	12,414	13,643

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	12,615	14,169
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	80	1,020
繰延ヘッジ損益	171	112
為替換算調整勘定	526	126
退職給付に係る調整額	132	169
持分法適用会社に対する持分相当額	100	97
その他の包括利益合計	1,243	1,525
包括利益	12,372	15,695
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	12,147	15,210
非支配株主に係る包括利益	224	485

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	17,874	16,086	84,514	0	118,474
当期変動額					
剰余金の配当			2,558		2,558
親会社株主に帰属する当期純利益			12,414		12,414
自己株式の取得				0	0
連結範囲の変動			50		50
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		-			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	9,804	0	9,804
当期末残高	17,874	16,086	94,319	1	128,279

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	7,956	174	1,026	249	8,558	5,753	132,786
当期変動額							
剰余金の配当							2,558
親会社株主に帰属する当期純利益							12,414
自己株式の取得							0
連結範囲の変動							50
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	79	198	677	132	266	570	836
当期変動額合計	79	198	677	132	266	570	8,968
当期末残高	8,036	24	348	116	8,292	5,183	141,755

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	17,874	16,086	94,319	1	128,279
当期変動額					
剰余金の配当			2,814		2,814
親会社株主に帰属する当期純利益			13,643		13,643
自己株式の取得				-	-
連結範囲の変動			-		-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		15			15
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	15	10,828	-	10,812
当期末残高	17,874	16,070	105,148	1	139,092

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	8,036	24	348	116	8,292	5,183	141,755
当期変動額							
剰余金の配当							2,814
親会社株主に帰属する当期純利益							13,643
自己株式の取得							-
連結範囲の変動							-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							15
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,011	117	273	164	1,566	497	2,064
当期変動額合計	1,011	117	273	164	1,566	497	12,877
当期末残高	9,047	141	621	48	9,859	5,681	154,632

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	18,854	20,535
賃貸資産減価償却費	9,105	10,119
社用資産減価償却費及び除却損	1,786	1,559
減損損失	39	-
持分法による投資損益（は益）	212	124
投資損益（は益）	357	445
貸倒引当金の増減額（は減少）	610	1,037
賞与引当金の増減額（は減少）	3	212
役員賞与引当金の増減額（は減少）	7	5
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	24	-
債務保証損失引当金の増減額（は減少）	31	40
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	1	121
受取利息及び受取配当金	510	519
資金原価及び支払利息	5,965	7,268
有価証券及び投資有価証券売却損益（は益）	266	586
有価証券及び投資有価証券評価損益（は益）	162	16
固定資産売却損益（は益）	0	-
売上債権の増減額（は増加）	31	122
割賦債権の増減額（は増加）	2,213	771
リース債権及びリース投資資産の増減額（は増加）	8,855	14,175
営業貸付債権の増減額（は増加）	29,188	14,031
営業投資有価証券の増減額（は増加）	75,383	24,366
賃貸料等未収入金の増減額（は増加）	492	250
賃貸資産の取得による支出	138,384	92,767
賃貸資産の売却による収入	104,750	57,834
仕入債務の増減額（は減少）	2,177	955
その他	8,863	7,464
小計	58,746	42,902
利息及び配当金の受取額	541	489
利息の支払額	5,943	7,218
法人税等の支払額	8,951	4,565
営業活動によるキャッシュ・フロー	73,100	54,196
投資活動によるキャッシュ・フロー		
社用資産の取得による支出	1,333	1,637
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	1,603	825
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	61	650
固定資産の売却による収入	15	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	2,254	-
その他	172	284
投資活動によるキャッシュ・フロー	487	2,096

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	27,111	42,074
コマーシャル・ペーパーの純増減額（は減少）	22,500	20,000
長期借入れによる収入	247,430	210,921
長期借入金の返済による支出	148,793	169,286
債権流動化による収入	325,400	285,300
債権流動化の返済による支出	303,200	257,581
社債の発行による収入	18,000	-
社債の償還による支出	20,000	-
配当金の支払額	2,558	2,814
その他	546	146
財務活動によるキャッシュ・フロー	67,213	44,317
現金及び現金同等物に係る換算差額	342	19
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	6,716	11,955
現金及び現金同等物の期首残高	48,332	41,563
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	52	-
現金及び現金同等物の期末残高	1 41,563	1 29,607

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 26社

主要な連結子会社の名称は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため省略しておりません。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

アストロ・リーシング・インターナショナル(有)

Aries Line Shipping S.A.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社のうち、アストロ・リーシング・インターナショナル(有)他102社は、主として匿名組合契約方式による賃貸事業を行っている営業者であり、その資産及び損益は実質的に当該子会社に帰属しないため、連結財務諸表規則第5条第1項第2号により連結の範囲から除外しております。

非連結子会社のうち、Aries Line Shipping S.A.他26社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産額・売上高・当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等はいずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

(3) 開示対象特別目的会社

開示対象特別目的会社の概要、開示対象特別目的会社を利用した取引の概要及び開示対象特別目的会社との取引金額等については、注記事項「開示対象特別目的会社関係」に記載しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数 3社

十八総合リース(株)

Krung Thai IBJ Leasing Co., Ltd.

PNB-IBJL Leasing and Finance Corporation

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社の名称等

アストロ・リーシング・インターナショナル(有)(非連結子会社)

Aries Line Shipping S.A.(非連結子会社)

(株)アイ・エヌ情報センター(関連会社)

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用しない非連結子会社のうち、アストロ・リーシング・インターナショナル(有)他102社は、主として匿名組合契約方式による賃貸事業を行っている営業者であり、その資産及び損益は実質的に当該子会社に帰属しないため、持分法の適用範囲から除外しております。

持分法を適用しない非連結子会社のうち、Aries Line Shipping S.A.他26社及び関連会社の(株)アイ・エヌ情報センター他2社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、興銀融資租賃(中国)有限公司他11社が12月31日、合同会社BBリーシングが1月31日及びCygnus Line Shipping S.A.他4社が2月28日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価を把握することが極めて困難と認められるもの

移動平均法による原価法を採用しております。

デリバティブ

時価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

賃貸資産

主として賃貸期間を償却年数とし、賃貸期間終了時の処分見積価額を残存価額とする定額法を採用しております。

その他の営業資産

資産の見積耐用年数を償却年数とし、定額法を採用しております。

社用資産

当社及び国内連結子会社は、主として定率法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～65年

器具備品 2～20年

その他の無形固定資産

当社及び国内連結子会社は、定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) 繰延資産の処理方法

社債発行費は、支出時に全額費用として処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

破産更生債権等については、債権額から回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しております。

なお、当連結会計年度において直接減額した金額は8,400百万円（前連結会計年度は8,501百万円）であります。

賞与引当金

当社及び一部の国内連結子会社は、従業員の賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

役員賞与引当金

当社及び一部の国内連結子会社は、役員等に対して支給する賞与の支払いに備えるため、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。

債務保証損失引当金

当社及び一部の国内連結子会社は、債務保証等に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案し、損失見込額を計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、発生期の従業員の平均残存勤務期間（10～15年）による定額法により按分した額を発生期の翌連結会計年度から費用処理しております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る売上高及び売上原価の計上基準

リース料を収受すべき時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(7) 重要な外貨建資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外連結子会社等の資産、負債、収益、費用は、各社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(8) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ、金利通貨スワップ、借入金

ヘッジ対象...借入金、営業貸付金、有価証券

ヘッジ方針

資産及び負債から発生する金利リスク及び為替変動リスクをヘッジし、安定した収益を確保するために、取締役会で定められた社内管理規程に基づき、デリバティブ取引を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジの開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動及びキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎として判断しております。

(9) のれんの償却方法及び償却期間

のれんについては投資効果の発現する期間を見積り、当該期間において均等償却しております。また、金額に重要性が乏しい場合には発生年度に一括償却しております。

(10) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(11) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

営業貸付債権の計上方法

営業目的の金融収益を得るために実行する貸付金、ファクタリング等を計上しております。なお、当該金融収益は「売上高」に計上しております。

営業投資有価証券の計上方法

営業目的の金融収益を得るために所有する有価証券を計上しております。なお、当該金融収益は「売上高」に計上しております。

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日改正 企業会計基準委員会)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日最終改正 企業会計基準委員会)

(1) 概要

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する実務指針を企業会計基準委員会に移管するに際して、基本的にその内容を踏襲した上で、必要と考えられる以下の見直しが行われたものであります。

(会計処理の見直しを行った主な取扱い)

- ・個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱い
- ・(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱い

(2) 適用予定日

平成31年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年後から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

1.有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
賃貸資産	95,568百万円	91,366百万円
その他の営業資産	-百万円	52百万円
社用資産	3,200百万円	3,322百万円

2.担保に供している資産及び対応する債務は、次のとおりであります。

(1)担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
リース債権及びリース投資資産	15,060百万円	14,307百万円
営業貸付金	2,244百万円	4,053百万円
営業投資有価証券	-百万円	1,217百万円
賃貸資産	13,524百万円	12,567百万円
投資有価証券	-百万円	1百万円
計	30,828百万円	32,147百万円

(2)担保提供資産に対応する債務

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	-百万円	1,000百万円
1年内返済予定の長期借入金	1,809百万円	2,060百万円
長期借入金	24,529百万円	24,190百万円
計	26,338百万円	27,250百万円

3.偶発債務

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)		当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(1)営業上の保証債務(含む保証予約)		(1)営業上の保証債務(含む保証予約)	
新日鉄住金エンジニアリング(株) *1	12,500百万円	近畿車輛(株) *1	3,000百万円
(株)みずほ銀行 *1	2,948百万円	(株)みずほ銀行 *1	2,426百万円
その他36社	6,256百万円	その他31社	5,865百万円
小計	21,704百万円	小計	11,292百万円
(2)営業以外の保証債務(関係会社及び従業員、 含む保証予約)		(2)営業以外の保証債務(関係会社及び従業員、 含む保証予約)	
Krung Thai IBJ Leasing Co., Ltd.	7,036百万円	Krung Thai IBJ Leasing Co., Ltd.	10,799百万円
従業員	212百万円	Regulus Leasing Pte. Ltd. 従業員	480百万円 168百万円
小計	7,248百万円	小計	11,448百万円
(1)と(2)の計	28,952百万円	(1)と(2)の計	22,740百万円
債務保証損失引当金	68百万円	債務保証損失引当金	27百万円
合計	28,884百万円	合計	22,713百万円

*1 (株)みずほ銀行他による金銭の貸付等について当社が保証したものであります。

4. 非連結子会社等に対する項目

各科目に含まれている非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
営業投資有価証券(その他)	16,545百万円	2,609百万円
投資有価証券(株式)	3,714百万円	3,942百万円
投資有価証券(その他)	4,193百万円	4,416百万円

5. 債権流動化に伴う支払債務及び債権流動化に伴う長期支払債務

債権流動化に伴う支払債務及び債権流動化に伴う長期支払債務は、リース債権流動化による資金調達額であります。なお、これに伴い譲渡したリース債権の残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
	86,359百万円	126,554百万円

6. 貸付業務における貸出コミットメント(貸手側)

当社において、貸付業務における貸出コミットメントに係る貸出未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
貸出コミットメントの総額	4,562百万円	6,063百万円
貸出実行残高	2,606百万円	4,947百万円
差引額	1,956百万円	1,116百万円

なお、上記貸出コミットメント契約においては、貸出先の資金使途、信用状態等に関する審査を貸出の条件としているため、必ずしも全額が貸出実行されるものではありません。

7. 当座貸越契約及び貸出コミットメント(借手側)

当社及び一部の連結子会社において、運転資金の効率的な調達を行うため取引金融機関63社(前連結会計年度は65社)と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	901,516百万円	928,137百万円
借入実行残高	298,791百万円	251,569百万円
差引額	602,724百万円	676,567百万円

8. 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
支払手形	- 百万円	2,279百万円
リース投資資産に基づく預り手形	- 百万円	15百万円
割賦販売契約に基づく預り手形	- 百万円	275百万円
その他の預り手形	- 百万円	4百万円

(連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
貸倒引当金繰入額	1,529百万円	746百万円
債務保証損失引当金繰入額	37百万円	40百万円
従業員給与・賞与・手当	7,501百万円	7,203百万円
賞与引当金繰入額	572百万円	784百万円
役員賞与引当金繰入額	62百万円	67百万円
退職給付費用	438百万円	421百万円

2. 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所	減損損失
Web利用料決済事業	ソフトウェア	東京都	39百万円

(減損損失を認識するに至った経緯)

一部の国内連結子会社において、賃貸事業に係る一部Web利用料決済事業の終了に伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失(39百万円)に計上しております。

(グルーピングの方法)

当社グループは、原則として、他の資産又は資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位毎にグルーピングを行っております。処分予定資産については個別物件毎にグルーピングを行っております。

(回収可能価額の算定方法)

回収可能価額は正味売却可能額により測定し、正味売却可能額は売却予定額に基づいて評価しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	1,235百万円	2,659百万円
組替調整額	1,119百万円	1,189百万円
税効果調整前	115百万円	1,470百万円
税効果額	34百万円	450百万円
その他有価証券評価差額金	80百万円	1,020百万円
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	12百万円	10百万円
組替調整額	276百万円	175百万円
税効果調整前	264百万円	165百万円
税効果額	93百万円	52百万円
繰延ヘッジ損益	171百万円	112百万円
為替換算調整勘定：		
当期発生額	526百万円	126百万円
組替調整額	- 百万円	- 百万円
税効果調整前	526百万円	126百万円
税効果額	- 百万円	- 百万円
為替換算調整勘定	526百万円	126百万円
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	151百万円	234百万円
組替調整額	39百万円	9百万円
税効果調整前	191百万円	243百万円
税効果額	58百万円	74百万円
退職給付に係る調整額	132百万円	169百万円
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	100百万円	97百万円
組替調整額	- 百万円	- 百万円
持分法適用会社に対する持分相当額	100百万円	97百万円
その他の包括利益合計	243百万円	1,525百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	42,649,000	-	-	42,649,000
合計	42,649,000	-	-	42,649,000
自己株式				
普通株式(注)	550	33	-	583
合計	550	33	-	583

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加33株は、単元未満株式の買取りによる増加33株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,279	30.00	平成28年3月31日	平成28年6月24日
平成28年11月8日 取締役会	普通株式	1,279	30.00	平成28年9月30日	平成28年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,450	利益剰余金	34.00	平成29年3月31日	平成29年6月26日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	42,649,000	-	-	42,649,000
合計	42,649,000	-	-	42,649,000
自己株式				
普通株式	583	-	-	583
合計	583	-	-	583

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,450	34.00	平成29年3月31日	平成29年6月26日
平成29年11月8日 取締役会	普通株式	1,364	32.00	平成29年9月30日	平成29年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,620	利益剰余金	38.00	平成30年3月31日	平成30年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	42,326百万円	30,337百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	762百万円	730百万円
現金及び現金同等物	41,563百万円	29,607百万円

2. 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

株式の売却により東芝医用ファイナンス(株)が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに東芝医用ファイナンス(株)株式の売却価額と売却による収入は次のとおりであります。

流動資産	47,890百万円
固定資産	801百万円
流動負債	32,987百万円
固定負債	10,490百万円
非支配株主持分	1,825百万円
株式売却益	244百万円
東芝医用ファイナンス(株)株式の売却価額	3,634百万円
東芝医用ファイナンス(株)現金及び現金同等物	1,088百万円
差引：売却による収入	2,546百万円

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(リース取引関係)
(借手側(当社グループが借手となっているリース取引))
オペレーティング・リース取引
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	8	6
1年超	11	8
合計	20	15

(貸手側(当社グループが貸手となっているリース取引))

1. ファイナンス・リース取引

(1) リース投資資産の内訳

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
リース料債権部分	769,756	777,746
見積残存価額部分	1,744	1,468
受取利息相当額	28,207	28,707
合計	743,293	750,508

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の金額の回収期日別内訳

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)						
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
リース債権	23,054	14,551	10,917	7,514	4,695	7,800	68,534
リース投資資産に係るリース料債権部分	231,176	173,553	139,171	93,722	55,272	76,860	769,756

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (平成30年3月31日)						
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
リース債権	21,762	16,102	12,636	9,595	5,223	10,530	75,852
リース投資資産に係るリース料債権部分	233,575	175,171	130,838	85,586	46,022	106,552	777,746

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	41,609	48,099
1年超	84,463	96,358
合計	126,073	144,458

3. 転リース取引

転リース取引に係る債権等及び債務のうち利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上している額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
リース債権	1,650	1,082
リース投資資産	5,483	5,933
リース債務	7,187	7,223

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、リース、割賦、貸付等の総合金融サービス事業を展開しております。資金調達につきましては、財務安定性の観点から調達方法の多様化を図り、金融機関からの間接調達のほか、コマーシャル・ペーパーや社債の発行、リース債権の流動化による直接調達を行っております。また、当社グループでは、資産負債の統合管理（ALM）を行っており、借入金利等の金利変動リスクを回避しつつ、安定した収益を確保する目的等でデリバティブ取引を利用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社グループが保有する金融資産は、主として取引先である国内事業会社に対するリース債権及びリース投資資産、割賦債権、営業貸付金、その他の営業貸付債権であり、取引先の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。景気や経済環境等の状況変化により取引先の信用状況が悪化した場合には、契約条件に従った債務履行がなされない可能性があります。また、営業投資有価証券、有価証券及び投資有価証券は、主として株式、債券、優先出資証券及び組合出資金であり、発行体及び出資先の信用リスクのほか、市場性のある商品は時価変動リスクに晒されています。また、不動産ファイナンスに係る営業取引に関しては、対象不動産の市場価格の変動リスクに晒されております。

借入金、コマーシャル・ペーパー及び社債等は、金融市場の環境変化により機動的な資金調達を行うことができなくなる流動性リスクに晒されているほか、変動金利借入については金利の変動リスクに晒されております。これらの資金調達に関するリスクについては、ALM分析に基づき管理し、リスクをコントロールしながら安定した収益の確保に努める態勢をとっております。

デリバティブ取引は、主としてALMの一環として行っている金利スワップ取引であります。当社グループでは、金利スワップ取引をヘッジ手段として、ヘッジ対象である借入金等に関わる金利の変動リスクに対してヘッジ会計を適用し、金利リスクの低減並びに金融収支改善のため、対象債務の範囲内でヘッジを行うことを方針としております。当該ヘッジの有効性評価は、ヘッジの開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動及びキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎として判断しております。

その他一部の外貨建資産・負債に関わる為替リスクに対しては、当該リスクが過大とならないようリスク量をコントロールするために、為替予約取引、金利通貨スワップ取引等のデリバティブ取引を利用しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

統合リスク管理について

当社グループでは、信用リスクと市場リスク（金利リスク、株式等の価格変動リスク）などを併せた金融リスクを総合的に把握しコントロールしていくことが極めて重要と考えており、統合リスク管理の仕組みを経営に組み込み、経営の安定性向上に努めております。具体的には、計量化された各種リスクを統合的・一元的に管理し、リスクの総量を自己資本（経営体力）の一定範囲内に抑える運営を行っております。また、リスクの計量は月次で行い、モニタリング結果を取締役会へ報告しております。

信用リスクの管理

当社グループでは、取引先の信用リスクに対して、取引の入口から出口にいたる各段階において与信管理の仕組みを組み込み、信用コストの抑制に努めております。

まず案件の受付等の段階では、取引先信用格付規準のもと、取引先毎に信用格付を付与することに始まり、案件審査における取引先毎の厳格な与信チェックや、リース物件の将来中古価値の見極め等による契約取組みの可否判断を行っているほか、与信集中回避の観点からは、格付別与信モニタリングによる与信上限管理を行っております。大口案件や複雑なリスク判断を求められる案件では、「クレジット委員会」にて、審議・決裁する態勢をとるなどリスク管理強化を実施しております。尚、新規業務・新商品の取り扱いに際しては、「リスク管理委員会」を通じ、リスクの洗い出しとその評価について事前に十分な検討を行う態勢としています。

次に期中管理として、日本公認会計士協会の「リース業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」に基づき、金融庁の「金融検査マニュアル」に準じた資産自己査定ルールを採用し、それに基づく所要の償却・引当を実施しております。また、ポートフォリオ全体の信用リスク管理については、取引先の信用格付をベースとしたリスク量の計量化を通じリスクをコントロールし、信用コストを極小化するよう努めております。

また、不良化した債権の最終処理促進の観点から、定期的フォローアップを行い、引当済債権の回収に尽力する管理体制をとっております。

市場リスクの管理

当社グループでは、財務運営にあたってリスクを適正規模にコントロールするため、市場環境・経営体力等をベースとした基本方針（資金調達方針、コマーシャル・ペーパー・プログラムの設定、ヘッジ方針、有価証券取引に係る基本方針等）を年度毎に取締役会で決定しております。さらに「PM・ALM委員会」にて、基本方針に従った月次でのALM運営方針や各種のポジションリミット、損失の限度などを定め、リスクをコントロールしながら安定した収益の確保に努めるという態勢をとっております。また、市場取引にあたっては、取引を執行する業務部門や受渡し決済を担う事務処理部門から独立したリスク管理専担部署を設置し、相互に牽制が働く体制としています。

() 金利リスクの管理

金利リスクについては、ALM（資産負債の統合管理）の手法によるマッチング比率（固定・変動利回りの資産に対して、固定・変動金利の負債・デリバティブを割り当てることにより、資産のうち金利リスクを負っていない部分の割合）の管理をはじめ、金融資産及び負債の金利や期間をBPV*（ベース・ポイント・バリュー）に基づき定量的に捉え、VaR*（バリュー・アット・リスク）などの統計的手法によって計量化のうえ分析・モニタリングを行っております。

また、併せて、規定の遵守状況等がリスク管理部門により管理されております。

当社グループにおける10BPV、並びにVaRの状況は以下のとおりです。VaR計測に使用している内部モデルは、過去の値動きが正規分布に従うと仮定し、分散、共分散を求めて統計的計算により最大損失額を推計する手法（分散・共分散法）を採用しております。

興銀リースグループにおける金利感応度（10BPV）

平成30年3月末： 25.5億円 （平成29年3月末： 24.8億円）

興銀リースグループにおける金利リスク量（VaR）

平成30年3月末： 13.5億円 （平成29年3月末： 30.3億円）

（VaR計測手法）

分散・共分散法により線形リスクを算定

定量基準

- (1) 信頼区間 99%
- (2) 保有期間 1ヶ月
- (3) 観測期間 1年

() 株式等の価格変動リスクの管理

株式等の価格変動リスクについては、金利リスク同様、リスク管理部門がVaRを用いてリスク量を把握し、併せて規定の遵守状況等を管理しております。

当社グループにおけるVaRの状況は以下のとおりです。VaR計測にあたっては、個々の株価の変動を株価指数の変動で表すモデルを作り、株価指数の変動率を一般市場リスクのリスクファクター、株価指数で表せない個々の株式毎の固有の変動部分を個別リスクのリスクファクターとして設定した株価変動モデルを採用しております。

興銀リースグループにおける保有株式の価格変動リスク（VaR）

平成30年3月末： 0.0億円（平成29年3月末： 0.0億円）

（注）上記VaR値は、年度の実現損益（減損を含む）及び評価損益勘案後、法人税相当差し引き後のものとなっております。

（VaR計測手法）

定量基準：

- （1）信頼区間 99%
- （2）保有期間 1ヶ月
- （3）観測期間 1年

時価のあるものについては計測日の市場価格等に基づく時価、時価のないものについては移動平均法による原価法又は償却原価法による価格に基づき、一般市場リスク（株式市場が変動することにより損失を被るリスク）、並びに個別リスク（個々の株式の発行者に関連した要因による価格変動リスク）を算定しそれらを合算しております。

なお、時価のないものの個別リスクは、変動率を8%として算定しております。

（ ）デリバティブ取引

当社グループにおけるデリバティブ取引は、主としてALMの一環として行っている金利スワップ取引であり、金利リスクをヘッジするために行われております。金利リスクを負う部分のヘッジによるコントロールは、月次開催の「PM・ALM委員会」にてその運営方針を定め行われており、また、業務管理面では牽制機能を確保するため、取引の執行部門からヘッジ有効性の評価等を担う市場リスク管理部門、及び受渡し決済を担う事務処理部門を明確に分離した体制をとっております。なお、デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、信用度の高い大手金融機関とのみ取引を行っております。

その他の価格変動リスクの管理

主なものは、不動産ファイナンスに係る特定社債、優先出資証券や組合出資金、並びにノンリコースローンに関係した対象不動産の市場価格が変動するリスクであり、こうしたリスクについては、投資元本回収時における不動産価値を推計し、元本の毀損リスクを定量化しモニタリングすることで管理しております。

資金調達に係る流動性リスクの管理

当社グループは、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長期及び短期の調達バランスの調整などにより流動性リスクを管理しております。

（4）市場リスクに関する定量的情報についての補足説明

市場リスクに関する定量的情報は、統計的な仮定に基づいて算出したものであり、前提条件である定量基準や計測手法によって異なる値となります。また、定量的情報は前提条件等に基づいて算定した統計的な値であり、最大損失額の予測を意図したものではありません。将来の市場の状況が過去とは大幅に異なることがありますので、過去のデータを観測値として推計した定量的情報には自ずと限界が多く存在します。

（用語説明）

- *BPV：金利リスク指標の1つで、金利が1ベースポイント（0.01%）上昇した場合に、対象資産・負債の現在価値がどれだけ変化するかを示した数値
当社グループでは10ベースポイント（0.1%）の変化値を基準
- *VaR：相場が不利な方向に動いた場合に、保有ポートフォリオのポジションが、一定期間、一定の確率（片側99%の信頼度）のもとでどの程度損失を被る可能性があるかを過去の統計に基づいて計量的に算出し、その生ずる可能性のある最大損失額をリスク量として把握する手法

（5）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）を参照ください）。

また、経過利息が発生する取引については、時価より連結決算日までの既経過利息を控除しております。

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)現金及び預金	42,326	42,326	-
(2)割賦債権（*1）（*2）	137,683	140,478	2,795
(3)リース債権及びリース投資資産 （*2）（*3）（*4）	797,650	816,496	18,846
(4)営業貸付金（*2）	204,755	215,655	10,900
(5)その他の営業貸付債権（*2）	138,957	140,602	1,644
(6)営業投資有価証券、有価証券及び投資有 価証券 その他有価証券	116,666	116,666	-
(7)破産更生債権等（*5）	2,995	2,995	-
資産計	1,441,034	1,475,221	34,187
(1)支払手形及び買掛金	53,400	53,310	90
(2)短期借入金	312,715	312,708	7
(3)コマーシャル・ペーパー	433,800	433,781	18
(4)リース債務	7,329	7,381	52
(5)社債	58,000	57,800	199
(6)長期借入金（*6）	610,822	611,432	609
(7)債権流動化に伴う長期支払債務（*7）	77,100	77,072	27
負債計	1,553,168	1,553,487	318
デリバティブ取引（*8） ヘッジ会計が適用されていないもの	136	136	-
ヘッジ会計が適用されているもの	(5)	(5)	-
デリバティブ取引計	131	131	-

（*1）割賦債権は、割賦未実現利益を控除しております。

（*2）割賦債権、リース債権及びリース投資資産、営業貸付金及びその他の営業貸付債権については、これらに対応する一般貸倒引当金を控除しております。

（*3）リース投資資産については、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る見積残存価額を控除しております。

（*4）リース債権及びリース投資資産については、約定期日到来により受領した未経過リース期間に対応するリース料を控除しております。

（*5）破産更生債権等に対応する個別貸倒引当金を控除しております。

（*6）1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

（*7）債権流動化に伴う支払債務を含めて表示しております。

（*8）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)現金及び預金	30,337	30,337	-
(2)割賦債権(*1)(*2)	138,472	141,124	2,652
(3)リース債権及びリース投資資産 (*2)(*3)(*4)	808,601	831,478	22,877
(4)営業貸付金(*2)	229,707	241,234	11,527
(5)その他の営業貸付債権(*2)	125,118	126,266	1,148
(6)営業投資有価証券、有価証券及び投資有 価証券			
その他有価証券	143,253	143,253	-
(7)破産更生債権等(*5)	2,281	2,281	-
資産計	1,477,772	1,515,977	38,204
(1)支払手形及び買掛金	54,383	54,321	62
(2)短期借入金	270,743	270,745	1
(3)コマーシャル・ペーパー	453,800	453,799	0
(4)リース債務	7,251	7,240	10
(5)社債	58,000	57,887	112
(6)長期借入金(*6)	648,878	649,631	753
(7)債権流動化に伴う長期支払債務(*7)	104,818	104,768	49
負債計	1,597,875	1,598,393	518
デリバティブ取引(*8)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	316	316	-
ヘッジ会計が適用されているもの	(8)	(8)	-
デリバティブ取引計	308	308	-

(*1) 割賦債権は、割賦未実現利益を控除しております。

(*2) 割賦債権、リース債権及びリース投資資産、営業貸付金及びその他の営業貸付債権については、これらに対応する一般貸倒引当金を控除しております。

(*3) リース投資資産については、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る見積残存価額を控除しております。

(*4) リース債権及びリース投資資産については、約定期日到来により受領した未経過リース期間に対応するリース料を控除しております。

(*5) 破産更生債権等に対応する個別貸倒引当金を控除しております。

(*6) 1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

(*7) 債権流動化に伴う支払債務を含めて表示しております。

(*8) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

預金は全て短期であり時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 割賦債権

割賦債権については、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを銀行間取引金利等の適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(3) リース債権及びリース投資資産

リース債権及びリース投資資産については、与信管理上の信用リスク区分ごとに、原則として受取リース料から維持管理費用を控除した将来キャッシュ・フローを銀行間取引金利等の適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(4) 営業貸付金及び(5)その他の営業貸付債権

営業貸付金及びその他の営業貸付債権については、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを銀行間取引金利等の適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(6) 営業投資有価証券、有価証券及び投資有価証券

営業投資有価証券、有価証券及び投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。債券は、取引金融機関から提示された価格、又は与信管理上の信用リスク区分ごとに将来キャッシュ・フローを銀行間取引金利等の適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値によっております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

(7) 破産更生債権等

破産更生債権等については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金

支払手形及び短期の買掛金については、短期間で決済されるため時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、長期の買掛金については、その将来キャッシュ・フローを銀行間取引金利等の適切な指標に調達スプレッドを上乗せして割り引いた現在価値により算定しております。

(2) 短期借入金及び(3)コマーシャル・ペーパー

短期借入金及びコマーシャル・ペーパーについては、その元利の合計額を銀行間取引金利等の適切な指標に調達スプレッドを上乗せして割り引いた現在価値により算定しております。

(4) リース債務

リース債務については、原則としてその将来キャッシュ・フローを銀行間取引金利等の適切な指標に調達スプレッドを上乗せして割り引いた現在価値により算定しております。

(5) 社債及び(6)長期借入金

社債及び長期借入金については、その元利の合計額を銀行間取引金利等の適切な指標に調達スプレッドを上乗せして割り引いた現在価値により算定しております。

(7) 債権流動化に伴う長期支払債務

債権流動化に伴う長期支払債務については、その将来キャッシュ・フローを銀行間取引金利等の適切な指標に債権流動化の調達スプレッドを上乗せして割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(6) 其他有価証券」には含まれておりません。

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式(*1)(*2)	10,428	10,950
ファンド、組合出資金(*3)	45,697	39,502
優先出資証券(*4)	1,233	1,233
その他(*4)	26,759	32,480
合計	84,119	84,166

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしておりません。

(*2) 非上場株式について、当連結会計年度は16百万円(前連結会計年度は162百万円)減損処理を行っております。

(*3) ファンド及び組合出資金については、それらの財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されていることから、時価開示の対象とはしておりません。

(*4) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
現金及び預金	42,326	-	-	-	-	-
割賦債権	51,140	36,534	25,165	14,105	6,473	4,669
リース債権及びリース投資資産	245,321	182,817	145,626	98,649	57,645	79,243
営業貸付金	32,522	38,427	30,753	43,832	17,449	42,220
その他の営業貸付債権	119,691	5,694	3,995	3,482	2,751	4,133
営業投資有価証券、有価証券及び投資有価証券 其他有価証券						
(1) 債券						
国債・地方債等	-	2,000	2,000	-	-	-
社債	1,200	-	5,500	25,300	22,000	27,960
(2) その他	21,917	9,646	8,599	3,005	3,959	7,616
合計	514,120	275,119	221,640	188,376	110,279	165,844

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
現金及び預金	30,337	-	-	-	-	-
割賦債権	52,285	36,511	23,694	14,270	7,336	4,752
リース債権及びリース投資資産	248,361	185,200	138,861	91,498	49,104	110,357
営業貸付金	42,656	44,523	54,293	28,288	21,774	38,868
その他の営業貸付債権	101,916	7,144	5,992	4,134	1,594	4,754
営業投資有価証券、有価証券及び投資有価証券 その他有価証券						
(1)債券						
国債・地方債等	2,000	2,000	-	-	-	-
社債	-	5,500	25,300	22,000	28,160	20,600
(2)その他	6,338	23,285	4,831	4,915	5,120	9,490
合計	483,897	304,166	252,973	165,106	113,090	188,824

(注4) 社債、長期借入金、リース債務及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	312,715	-	-	-	-	-
コマーシャル・ペーパー	433,800	-	-	-	-	-
リース債務	141	28	0	0	0	-
社債	-	20,000	20,000	-	10,000	8,000
長期借入金(*1)	155,509	152,322	119,503	74,270	45,877	63,338
債権流動化に伴う長期支払債務 (*2)	59,180	9,243	6,669	2,007	-	-
合計	961,347	181,593	146,173	76,277	55,877	71,338

(*1) 1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

(*2) 債権流動化に伴う支払債務を含めて表示しております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	270,743	-	-	-	-	-
コマーシャル・ペーパー	453,800	-	-	-	-	-
リース債務	28	0	0	0	-	-
社債	20,000	20,000	-	10,000	-	8,000
長期借入金(*1)	182,054	147,485	116,751	61,165	64,803	76,618
債権流動化に伴う長期支払債務 (*2)	63,621	21,779	12,459	6,334	624	-
合計	990,247	189,265	129,211	77,500	65,427	84,618

(*1) 1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

(*2) 債権流動化に伴う支払債務を含めて表示しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	18,701	11,460	7,241
	(2) 債券			
	国債・地方債等	4,049	4,000	49
	社債	61,371	57,061	4,310
	(3) その他	5,433	5,194	238
	小計	89,555	77,715	11,839
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	356	396	39
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	24,788	24,900	111
	(3) その他	1,965	2,087	121
	小計	27,111	27,383	272
合計		116,666	105,099	11,567

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額 80,405百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	20,612	11,812	8,800
	(2) 債券			
	国債・地方債等	4,024	4,000	24
	社債	104,485	100,061	4,424
	(3) その他	5,754	5,590	163
	小計	134,877	121,464	13,412
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	752	857	105
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	1,494	1,500	5
	(3) その他	6,129	6,393	263
	小計	8,376	8,751	375
合計		143,253	130,215	13,037

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額 80,224百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(1) 株式	28	21	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	28	21	-

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(1) 株式	1,165	600	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	1,165	600	-

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、投資有価証券について162百万円(その他有価証券の株式 138百万円、子会社株式 24百万円)の減損処理を行っております。

当連結会計年度において、投資有価証券について16百万円(子会社株式 16百万円)の減損処理を行っておりません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建	3,585	2,317	186	186
	米ドル 買建	1,268	-	49	49
	米ドル				
合計		4,854	2,317	136	136

(注) 時価は金融機関から提示された価格等によっております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建	2,317	-	207	207
	米ドル				
合計		2,317	-	207	207

(注) 時価は金融機関から提示された価格等によっております。

(2) 金利通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	金利通貨スワップ取引 支払変動・受取変動 支払日本円・受取米 ドル	3,333	3,333	109	109
合計		3,333	3,333	109	109

(注) 時価は金融機関から提示された価格等によっております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	104,991	81,039	94
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	67,428	52,623	(注) 1
合計			172,420	133,663	94

(注) 1. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

2. 時価は金融機関から提示された価格等によっております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	短期借入金 長期借入金	122,378	93,750	85
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	営業貸付金 長期借入金	4,041 63,583	4,041 47,030	(注) 1
合計			190,003	144,821	85

(注) 1. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている営業貸付金及び長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該営業貸付金及び長期借入金の時価に含めて記載しております。

2. 時価は金融機関から提示された価格等によっております。

(2) 金利通貨関連

前連結会計年度（平成29年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利通貨スワップ取引 支払固定・受取変動 支払インドネシア ピア・受取米ドル	長期借入金	824	136	89
合計			824	136	89

(注) 時価は金融機関から提示された価格等によっております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利通貨スワップ取引 支払固定・受取固定 支払日本円・受取米 ドル	有価証券	2,457	2,457	71
	支払固定・受取変動 支払インドネシア ピア・受取米ドル	長期借入金	130	14	5
合計			2,588	2,472	77

(注) 時価は金融機関から提示された価格等によっております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けており、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

なお、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	退職給付債務の期首残高	6,550百万円		6,364百万円
勤務費用	369百万円		362百万円	
利息費用	25百万円		25百万円	
数理計算上の差異の発生額	36百万円		33百万円	
退職給付の支払額	422百万円		212百万円	
その他	121百万円		-百万円	
退職給付債務の期末残高	6,364百万円		6,505百万円	

(注) 退職一時金制度を設けている一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	年金資産の期首残高	3,726百万円		3,831百万円
期待運用収益	54百万円		34百万円	
数理計算上の差異の発生額	133百万円		201百万円	
事業主からの拠出額	219百万円		177百万円	
退職給付の支払額	217百万円		148百万円	
その他	85百万円		-百万円	
年金資産の期末残高	3,831百万円		4,095百万円	

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)		当連結会計年度 (平成30年3月31日)	
	積立型制度の退職給付債務	4,014百万円		4,113百万円
年金資産	3,831百万円		4,095百万円	
	183百万円		18百万円	
非積立型制度の退職給付債務	2,349百万円		2,392百万円	
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,533百万円		2,410百万円	
退職給付に係る負債	2,533百万円		2,410百万円	
退職給付に係る資産	-百万円		-百万円	
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,533百万円		2,410百万円	

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
	勤務費用	369百万円		362百万円
利息費用	25百万円		25百万円	
期待運用収益	54百万円		34百万円	
数理計算上の差異の費用処理額	39百万円		9百万円	
確定給付制度に係る退職給付費用	379百万円		362百万円	

(注) 簡便法を採用している一部の連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
数理計算上の差異	191百万円	243百万円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識数理計算上の差異	194百万円	49百万円

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
国内債券	17.1%	18.4%
国内株式	24.7%	23.7%
外国債券	6.2%	7.6%
外国株式	19.7%	19.4%
保険資産（一般勘定）	29.4%	28.1%
その他	2.9%	2.8%
合計	100.0%	100.0%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
割引率	0.30～0.47%	0.30～0.47%
長期期待運用収益率	1.50%	0.89%
予想昇給率	4.01～9.27%	4.01～9.27%

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度58百万円、当連結会計年度59百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金超過額	2,447百万円	1,194百万円
減価償却超過額	592百万円	550百万円
退職給付に係る負債	397百万円	435百万円
有価証券評価損	222百万円	213百万円
未払事業税	98百万円	169百万円
その他	3,383百万円	3,568百万円
繰延税金資産小計	7,142百万円	6,131百万円
評価性引当額	350百万円	332百万円
繰延税金資産合計	6,791百万円	5,799百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	3,488百万円	3,938百万円
リース投資資産	223百万円	192百万円
その他	240百万円	422百万円
繰延税金負債合計	3,952百万円	4,553百万円
繰延税金資産の純額	2,839百万円	1,245百万円

繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	1,874百万円	1,595百万円
固定資産 - 繰延税金資産	975百万円	631百万円
流動負債 - その他(繰延税金負債)	- 百万円	- 百万円
固定負債 - その他(繰延税金負債)	11百万円	980百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
(調整)		
住民税均等割額	0.2%	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5%	
のれん償却額	0.1%	
評価性引当額の影響	0.2%	
その他	1.2%	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.1%	

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の国内連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸商業施設等(土地を含む。)を所有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は2,993百万円(主な賃貸収益及び賃貸費用はそれぞれ売上高及び売上原価に計上)、売却損益は1,018百万円(売却収益及び売却費用はそれぞれ売上高及び売上原価に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は2,755百万円(主な賃貸収益及び賃貸費用はそれぞれ売上高及び売上原価に計上)、売却損益は564百万円(売却収益及び売却費用はそれぞれ売上高及び売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	87,208	95,653
期中増減額	8,445	16,779
期末残高	95,653	112,432
期末時価	99,310	118,507

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は不動産取得(105,012百万円)であり、当連結会計年度の主な増加額は不動産取得(74,667百万円)であります。
3. 期末の時価は、主として不動産鑑定士による不動産鑑定評価に基づく金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは大企業から中小企業までの幅広い顧客層に対して、リースや割賦販売、企業金融などの総合金融サービスを提供しており、サービスの形態に応じた区分である「リース・割賦」、「ファイナンス」及び「その他」を報告セグメントとしております。

「リース・割賦」は産業工作機械、輸送用機器、情報関連機器等のリース業務(リース取引の満了・中途解約に伴う物件販売等を含む)及び生産設備、建設土木機械、商業用設備等の割賦販売業務を行っております。

「ファイナンス」は企業金融、船舶ファイナンス、ファクタリング業務及び営業目的の収益を得るために所有する有価証券の運用業務等を行っております。「その他」は中古物件売買、太陽光売電業務等を行っております。

当連結会計年度末より、従来区分掲記していた「リース」セグメントと「割賦」セグメントを集約して「リース・割賦」セグメントに変更し、また従来「その他」セグメントに含んでいた営業有価証券の運用業務を分離して従来の「貸付」セグメントと集約して新たに「ファイナンス」セグメントに変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	連結 財務諸表 計上額 (注)2
	リース・割賦	ファイナンス	その他			
売上高						
外部顧客への売上高	416,594	11,438	1,372	429,405	-	429,405
セグメント間の内部 売上高又は振替高	411	269	95	777	777	-
計	417,005	11,708	1,468	430,182	777	429,405
セグメント利益	15,770	6,140	467	22,378	4,416	17,962
セグメント資産	1,167,914	559,170	4,063	1,731,148	21,136	1,752,284
その他の項目						
減価償却費	9,105	-	-	9,105	1,785	10,891
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	138,384	-	-	138,384	1,333	139,717

(注)1. セグメント利益の調整額 4,416百万円には、セグメント間取引消去 287百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 4,129百万円が含まれております。
セグメント資産の調整額21,136百万円には、セグメント間取引消去 11,786百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産32,922百万円が含まれております。
減価償却費の調整額、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、全社資産に係るものであります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	連結 財務諸表 計上額 (注)2
	リース・割賦	ファイナンス	その他			
売上高						
外部顧客への売上高	386,007	12,510	1,220	399,738	-	399,738
セグメント間の内部 売上高又は振替高	372	337	107	817	817	-
計	386,379	12,848	1,327	400,555	817	399,738
セグメント利益	15,524	7,963	393	23,881	4,718	19,162
セグメント資産	1,199,470	609,459	8,692	1,817,622	3,879	1,821,501
その他の項目						
減価償却費	10,119	-	-	10,119	1,544	11,664
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	92,767	-	-	92,767	1,637	94,404

(注)1. セグメント利益の調整額 4,718百万円には、セグメント間取引消去 256百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 4,462百万円が含まれております。
セグメント資産の調整額3,879百万円には、セグメント間取引消去 29,865百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産33,744百万円が含まれております。
減価償却費の調整額、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、全社資産に係るものであります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	北米・中南米	アジア	計
126,555	17,392	263	144,211

(注) 当社及び連結子会社の所在する国又は地域別に記載しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、

記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	リース・割賦	ファイナンス	その他	合計	調整額	連結財務諸表 計上額
減損損失	39	-	-	39	-	39

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

金額的重要性が低いため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

2. 重要な関連会社に関する注記

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

重要な関連会社はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

重要な関連会社はありません。

(開示対象特別目的会社関係)

1. 開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概要

当社では、資金調達先の多様化を図り、安定的に資金調達することを目的として、リース料債権の流動化を実施しております。当該流動化にあたり、特別目的会社を利用しておりますが、これらには特例有限会社や株式会社などがあります。

当該流動化において、当社は、前述したリース料債権を特別目的会社に譲渡し、譲渡した資産を裏付けとして特別目的会社が借入などによって調達した資金を、売却代金として受領しております。

さらに、当社は、特別目的会社に対し回収サービス業務を行い、また、一部については譲渡資産の残存部分を留保しております。この残存部分については、平成30年3月末現在、適切に評価を行い会計処理に反映しております。

流動化の結果、取引残高のある特別目的会社は以下のとおりとなっております。なお、大半の特別目的会社においては、当社の従業員が役員を兼務しておりますが、当社は議決権のある株式等は保有しておりません。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
特別目的会社数	20社	20社
直近の決算日における資産総額(単純合算)	160,191百万円	120,601百万円
直近の決算日における負債総額(単純合算)	160,806百万円	121,161百万円

2. 開示対象特別目的会社との取引金額等

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	主な取引の金額又は 当連結会計年度末残高	主な損益	
		項目	金額
譲渡資産(注)1			
リース債権及びリース投資資産	18,257	譲渡益	-
譲渡資産に係る残存部分(注)2	4,615	分配益	46
事務受託業務(注)3	-	事務受託手数料	1

当連結会計年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

(単位:百万円)

	主な取引の金額又は 当連結会計年度末残高	主な損益	
		項目	金額
譲渡資産(注)1			
リース債権及びリース投資資産	2,109	譲渡益	-
譲渡資産に係る残存部分(注)2	81	分配益	153
事務受託業務(注)3	-	事務受託手数料	1

(注)1. 譲渡資産に係る取引の金額は、譲渡時点の帳簿価額によって記載しております。

なお、リース料債権の流動化について、金銭債権消滅の認識要件を満たしていないものについては金融取引として処理しているため、当該取引における取引金額等の記載を省略しております。

2. 譲渡資産に係る残存部分の取引の金額は、各連結会計年度における資産の譲渡によって生じたもので、譲渡時点の帳簿価額によって記載しております。平成29年3月末の譲渡資産に係る残存部分の残高は5,312百万円であり、平成30年3月末の譲渡資産に係る残存部分の残高は5,414百万円であります。また、当該残存部分に係る分配益は売上高に計上しております。

3. 事務受託手数料は、回収サービス業務に係る手数料を含んでおり、営業外収益に計上しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	3,202円27銭	3,492円55銭
1株当たり当期純利益金額	291円08銭	319円91銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額 (百万円)	12,414	13,643
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額(百万円)	12,414	13,643
普通株式の期中平均株式数(千株)	42,648	42,648

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保	償還期限
		平成年月日					平成年月日
興銀リース(株)	第4回無担保普通社債	26.5.23	10,000 (-)	10,000 (-)	0.360	なし	31.5.23
興銀リース(株)	第5回無担保普通社債	26.12.5	10,000 (-)	10,000 (-)	0.272	なし	31.12.5
興銀リース(株)	第6回無担保普通社債	27.6.5	10,000 (-)	10,000 (10,000)	0.151	なし	30.6.5
興銀リース(株)	第7回無担保普通社債	27.12.4	10,000 (-)	10,000 (10,000)	0.175	なし	30.12.4
興銀リース(株)	第8回無担保普通社債	28.9.27	10,000 (-)	10,000 (-)	0.210	なし	33.9.27
興銀リース(株)	第9回無担保普通社債	28.9.27	8,000 (-)	8,000 (-)	0.380	なし	35.9.27
合計	-	-	58,000 (-)	58,000 (20,000)	-	-	-

(注) 1. () 内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
20,000	20,000	-	10,000	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	312,715	270,743	0.66	-
1年内返済予定の長期借入金	155,509	182,054	0.57	-
1年内返済予定のリース債務	141	28	-	-
長期借入金(1年内返済予定のものを除く)	455,312	466,824	0.72	平成31年6月28日～ 平成42年1月26日
リース債務(1年内返済予定のものを除く)	30	1	-	平成33年12月15日
その他有利子負債				
コマーシャル・ペーパー(1年内返済予定)	433,800	453,800	0.05	-
債権流動化に伴う支払債務(1年内返済予定)	59,180	63,621	0.16	-
債権流動化に伴う長期支払債務(1年内返済予定のものを除く)	17,919	41,196	0.30	平成33年9月24日～ 平成34年6月30日
合計	1,434,610	1,478,270	-	-

- (注) 1. 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、リース債務について、利息相当額を認識しない方法を採用しているため、平均利率の記載を省略しております。
2. リース債務については、金利の負担を伴うもの(自社使用設備の調達を目的とするもの)について記載しております。
3. 長期借入金、リース債務及びその他有利子負債(1年内返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	147,485	116,751	61,165	64,803
リース債務	0	0	0	-
その他有利子負債	21,779	12,459	6,334	624

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	94,238	178,408	283,276	399,738
税金等調整前四半期 (当期) 純利益金額 (百万円)	4,979	9,993	15,272	20,535
親会社株主に帰属する 四半期 (当期) 純利益金額 (百万円)	3,353	6,702	10,231	13,643
1 株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)	78.63	157.15	239.91	319.91

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期 純利益金額 (円)	78.63	78.53	82.76	80.00

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,092	21,483
受取手形	24	19
割賦債権	125,601	126,363
リース債権	53,768	55,659
リース投資資産	2,425,993	2,442,050
営業貸付金	2, 3, 7, 10 205,418	2, 3, 7, 10 236,549
その他の営業貸付債権	10 55,407	10 60,794
営業投資有価証券	171,172	2 195,671
その他の営業資産	3,130	4,130
賃貸料等未収入金	1,767	2,297
有価証券	44	529
前渡金	7,863	7,868
前払費用	528	501
繰延税金資産	151	218
未収収益	1,022	1,251
関係会社短期貸付金	91,247	120,137
その他	17,992	17,567
貸倒引当金	670	1,020
流動資産合計	1,182,558	1,292,072
固定資産		
有形固定資産		
賃貸資産		
賃貸資産	93,353	111,858
賃貸資産前渡金	311	5,858
賃貸資産合計	93,665	117,717
社用資産		
建物及び構築物(純額)	1,248	1,218
器具備品(純額)	196	196
土地	1,322	1,322
リース賃借資産(純額)	171	176
社用資産合計	2,938	2,912
有形固定資産合計	96,604	120,630
無形固定資産		
賃貸資産		
賃貸資産	100	103
賃貸資産合計	100	103
その他の無形固定資産		
ソフトウェア	2,336	2,275
電話加入権	17	17
その他	56	337
その他の無形固定資産合計	2,410	2,630
無形固定資産合計	2,510	2,733

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	19,632	20,832
関係会社株式	28,584	² 28,718
その他の関係会社有価証券	15,648	15,973
関係会社出資金	2,739	2,739
関係会社長期貸付金	3,639	20,939
破産更生債権等	¹⁰ 3,189	¹⁰ 2,252
長期前払費用	272	375
繰延税金資産	384	-
その他	1,387	1,581
貸倒引当金	337	164
投資その他の資産合計	75,140	93,248
固定資産合計	174,255	216,612
資産合計	1,356,813	1,508,685
負債の部		
流動負債		
支払手形	8,123	⁹ 9,709
買掛金	29,827	29,708
短期借入金	⁸ 190,763	^{2, 8} 172,101
1年内償還予定の社債	-	20,000
1年内返済予定の長期借入金	² 105,432	² 126,403
コマーシャル・ペーパー	385,800	457,700
債権流動化に伴う支払債務	⁶ 57,680	⁶ 63,621
リース債務	3,839	4,684
未払金	3,493	3,192
未払費用	1,241	1,103
未払法人税等	847	771
賃貸料等前受金	3,276	5,510
預り金	645	727
前受収益	39	51
割賦未実現利益	277	259
賞与引当金	283	493
役員賞与引当金	50	55
債務保証損失引当金	63	26
その他	3,169	3,796
流動負債合計	794,855	899,915

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
固定負債		
社債	58,000	38,000
長期借入金	2,348,450	2,380,857
債権流動化に伴う長期支払債務	6,17,919	6,41,196
リース債務	145	125
繰延税金負債	-	902
退職給付引当金	258	272
受取保証金	21,679	24,410
その他	289	349
固定負債合計	446,742	486,116
負債合計	1,241,598	1,386,032
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,874	17,874
資本剰余金		
資本準備金	15,794	15,794
その他資本剰余金	291	291
資本剰余金合計	16,086	16,086
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	52,000	58,000
繰越利益剰余金	21,358	21,617
利益剰余金合計	73,358	79,617
自己株式	1	1
株主資本合計	107,317	113,576
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,919	8,849
繰延ヘッジ損益	21	227
評価・換算差額等合計	7,897	9,076
純資産合計	115,215	122,653
負債純資産合計	1,356,813	1,508,685

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高		
リース売上高	1 272,069	1 244,955
割賦売上高	8,670	11,142
ファイナンス収益	4,871	5,437
その他の売上高	2 6,285	2 7,331
売上高合計	291,897	268,867
売上原価		
リース原価	3 256,004	3 229,951
割賦原価	6,995	9,598
資金原価	4 3,614	4 4,772
その他の売上原価	5 775	5 823
売上原価合計	267,389	245,146
売上総利益	24,507	23,720
販売費及び一般管理費	6 11,677	6 13,291
営業利益	12,830	10,429
営業外収益		
受取利息	7 214	7 399
受取配当金	7 2,376	7 1,072
業務受託手数料	88	116
投資収益	7 1,060	7 681
その他	144	102
営業外収益合計	3,884	2,372
営業外費用		
支払利息	232	288
社債発行費	106	3
為替差損	-	63
その他	7	19
営業外費用合計	346	375
経常利益	16,368	12,426
特別利益		
投資有価証券売却益	21	586
関係会社株式売却益	1,005	-
特別利益合計	1,027	586
特別損失		
投資有価証券評価損	138	-
関係会社株式評価損	24	16
特別損失合計	162	16
税引前当期純利益	17,234	12,996
法人税、住民税及び事業税	4,006	3,222
法人税等調整額	1,168	700
法人税等合計	5,174	3,922
当期純利益	12,059	9,074

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	17,874	15,794	291	16,086	46,000	17,857	63,857
当期変動額							
剰余金の配当						2,558	2,558
別途積立金の積立					6,000	6,000	-
当期純利益						12,059	12,059
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	6,000	3,500	9,500
当期末残高	17,874	15,794	291	16,086	52,000	21,358	73,358

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	0	97,816	7,849	330	7,519	105,336
当期変動額						
剰余金の配当		2,558				2,558
別途積立金の積立		-				-
当期純利益		12,059				12,059
自己株式の取得	0	0				0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			69	308	378	378
当期変動額合計	0	9,500	69	308	378	9,878
当期末残高	1	107,317	7,919	21	7,897	115,215

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	17,874	15,794	291	16,086	52,000	21,358	73,358
当期変動額							
剰余金の配当						2,814	2,814
別途積立金の積立					6,000	6,000	
当期純利益						9,074	9,074
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計					6,000	259	6,259
当期末残高	17,874	15,794	291	16,086	58,000	21,617	79,617

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	1	107,317	7,919	21	7,897	115,215
当期変動額						
剰余金の配当		2,814				2,814
別途積立金の積立						
当期純利益		9,074				9,074
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			929	249	1,178	1,178
当期変動額合計		6,259	929	249	1,178	7,438
当期末残高	1	113,576	8,849	227	9,076	122,653

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価を把握することが極めて困難と認められるもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 賃貸資産

主として賃貸期間を償却年数とし、賃貸期間終了時の処分見積価額を残存価額とする定額法を採用しております。

(2) 社用資産

主として定率法を採用しております。ただし、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～65年

器具備品 3～15年

(3) その他の無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

4. 繰延資産の処理方法

社債発行費は、支出時に全額費用として処理しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

破産更生債権等については、債権額から回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しております。

なお、当事業年度において直接減額した金額は7,462百万円(前事業年度は7,273百万円)であります。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、発生期の従業員の平均残存勤務期間(12～15年)による定額法により按分した額を発生期の翌事業年度から費用処理しております。

- (4) 役員賞与引当金
執行役員に対して支給する賞与の支払いに備えるため、当事業年度における支給見込額を計上しております。
- (5) 債務保証損失引当金
債務保証等に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案し、損失見込額を計上しております。

7. 収益及び費用の計上基準

(1) リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引に係る売上高及び売上原価の計上基準

リース料を收受すべき時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

オペレーティング・リース取引に係る売上高の計上基準

リース契約期間に基づくリース契約上の收受すべき月当たりのリース料を基準として、その経過期間に対応するリース料を計上しております。

(2) 割賦販売取引の割賦売上高及び割賦原価の計上基準

原則として、商品の引渡時にその契約高のうち元本相当額を割賦債権に計上し、支払期日の到来の都度金利相当額を割賦売上高に計上しております。

なお、販売型割賦契約については販売時に割賦売上高と対応する割賦原価の一括計上を行っております。

また、期間未到来の割賦未実現利益は、繰延処理しております。

(3) 金融費用の計上基準

金融費用は、売上高に対応する金融費用とその他の金融費用を区分計上することとしております。

その配分方法は、総資産を営業取引に基づく資産とその他の資産に区分し、その資産残高を基準として営業資産に対応する金融費用は資金原価として売上原価に、その他の資産に対応する金融費用を営業外費用に計上しております。

なお、資金原価は、営業資産に係る金融費用からこれに対応する受取利息等を控除して計上しております。

8. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ、金利通貨スワップ、借入金

ヘッジ対象...借入金、営業貸付金、有価証券

(3) ヘッジ方針

資産及び負債から発生する金利リスク及び為替変動リスクをヘッジし、安定した収益を確保するために、取締役会で定められた社内管理規程に基づき、デリバティブ取引を行っております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジの開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動及びキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎として判断しております。

9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 営業貸付債権の計上方法

営業目的の金融収益を得るために実行する貸付金、ファクタリング等を計上しております。なお、当該金融収益は売上高の「ファイナンス収益」に計上しております。

(2) 営業投資有価証券の計上方法

営業目的の金融収益を得るために所有する有価証券を計上しております。なお、当該金融収益は売上高の「その他の売上高」に計上しております。

(3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1. リース・割賦販売契約等に基づく預り手形は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
リース投資資産に基づく預り手形	861百万円	775百万円
割賦販売契約に基づく預り手形	10,078百万円	7,397百万円
その他の預り手形	414百万円	-百万円

2. 担保に供している資産及び対応する債務は、次のとおりであります。

(1) 担保に供している資産

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
リース投資資産	15,060百万円	14,307百万円
営業貸付金	2,244百万円	4,053百万円
営業投資有価証券	-百万円	1,217百万円
関係会社株式	-百万円	1百万円
計	17,304百万円	19,580百万円

(2) 担保提供資産に対応する債務

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	-百万円	1,000百万円
1年内返済予定の長期借入金	907百万円	1,122百万円
長期借入金	16,396百万円	17,238百万円
計	17,304百万円	19,360百万円

3. 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
営業貸付金	59,541百万円	59,566百万円

上記以外の関係会社に対する資産及び負債は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
関係会社に対する資産	45,273百万円	43,581百万円
関係会社に対する負債	8,203百万円	7,205百万円

4. 偶発債務

前事業年度 (平成29年3月31日)		当事業年度 (平成30年3月31日)	
(1) 営業上の保証債務(含む保証予約)		(1) 営業上の保証債務(含む保証予約)	
新日鉄住金エンジニアリング(株) *1	12,500百万円	近畿車輛(株) *1	3,000百万円
(株)みずほ銀行 *1	2,948百万円	(株)みずほ銀行 *1	2,426百万円
その他26社	5,610百万円	その他23社	5,599百万円
小計	21,058百万円	小計	11,025百万円
(2) 営業以外の保証債務(関係会社及び従業員、 含む保証予約)		(2) 営業以外の保証債務(関係会社及び従業員、 含む保証予約)	
興銀融資租賃(中国)有限公司	10,276百万円	興銀融資租賃(中国)有限公司	15,606百万円
Krung Thai IBJ Leasing Co., Ltd.	7,036百万円	Krung Thai IBJ Leasing Co., Ltd.	10,799百万円
PT. IBJ VERENA FINANCE	6,887百万円	PT. IBJ VERENA FINANCE	4,940百万円
従業員	212百万円	Regulus Leasing Pte. Ltd. 従業員	480百万円 168百万円
小計	24,412百万円	小計	31,995百万円
(1)と(2)の計	45,470百万円	(1)と(2)の計	43,021百万円
債務保証損失引当金	63百万円	債務保証損失引当金	26百万円
合計	45,407百万円	合計	42,994百万円

*1 (株)みずほ銀行他による金銭の貸付等について当社が保証したものであります。

5. 買付予約高

リース契約及び割賦販売契約の成約による購入資産の買付予約高は、次のとおりであります。

前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
71,696百万円	55,748百万円

6. 債権流動化に伴う支払債務及び債権流動化に伴う長期支払債務

債権流動化に伴う支払債務及び債権流動化に伴う長期支払債務は、リース債権流動化による資金調達額であります。なお、これに伴い譲渡したリース債権の残高は、次のとおりであります。

前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
84,791百万円	126,554百万円

7. 貸付業務における貸出コミットメント(貸手側)

貸付業務における貸出コミットメントに係る貸出未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
貸出コミットメントの総額	4,562百万円	6,063百万円
貸出実行残高	2,606百万円	4,947百万円
差引額	1,956百万円	1,116百万円

なお、上記貸出コミットメント契約においては、貸出先の資金使途、信用状態等に関する審査を貸出の条件としているため、必ずしも全額が貸出実行されるものではありません。

8. 当座貸越契約及び貸出コミットメント（借手側）

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引金融機関59社（前事業年度は58社）と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	650,410百万円	729,927百万円
借入実行残高	188,191百万円	168,969百万円
差引額	462,218百万円	560,957百万円

9. 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が事業年度末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
支払手形	- 百万円	2,279百万円
リース投資資産に基づく預り手形	- 百万円	15百万円
割賦販売契約に基づく預り手形	- 百万円	275百万円
その他の預り手形	- 百万円	4百万円

10. 「営業貸付金」及び「その他の営業貸付債権」にかかる不良債権の状況

「特定金融会社等の会計の整理に関する内閣府令」（平成11年5月19日総理府・大蔵省令第32号）第9条の分類に基づく、不良債権の状況は次のとおりであります。

なお、投資その他の資産の「破産更生債権等」に計上している営業貸付金及びその他の営業貸付債権を含んでおります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(1) 破綻先債権 *1	2,110百万円	874百万円
(2) 延滞債権 *2	304百万円	1百万円
(3) 3ヵ月以上延滞債権 *3	- 百万円	- 百万円
(4) 貸出条件緩和債権 *4	- 百万円	- 百万円

*1 破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金（以下「未収利息不計上貸付金」という。）のうち、法人税法施行令第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じているものであります。

*2 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金のうち、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外のものであります。

*3 3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸付金のうち、破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

*4 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金のうち、破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。

(損益計算書関係)

1. リース売上高の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
ファイナンス・リース料収入	163,356百万円	167,828百万円
オペレーティング・リース料収入	18,707百万円	18,066百万円
賃貸資産売上及び解約損害金	89,192百万円	58,758百万円
転リース手数料	-百万円	0百万円
その他のリース料収入	812百万円	302百万円
計	272,069百万円	244,955百万円

2. その他の売上高は、営業投資有価証券に係る受取利息等、営業取引に係る受取手数料及び受取保証料等であります。

3. リース原価の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
ファイナンス・リース原価	155,751百万円	160,132百万円
オペレーティング・リース資産減価償却費及び処分原価	93,124百万円	62,955百万円
固定資産税等諸税	3,173百万円	3,256百万円
保険料	505百万円	529百万円
その他のリース原価	3,449百万円	3,077百万円
計	256,004百万円	229,951百万円

4. 資金原価は、「重要な会計方針」7(3)に記載している金融費用であり、その内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
支払利息	3,617百万円	4,791百万円
受取利息	3百万円	18百万円
差引計	3,614百万円	4,772百万円

5. その他の売上原価は、営業取引に係る支払手数料等であります。

6. 販売費及び一般管理費の主要な費目別内訳

販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度56%、当事業年度61%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度44%、当事業年度39%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
貸倒引当金繰入額	655百万円	628百万円
債務保証損失引当金繰入額	33百万円	36百万円
従業員給与・賞与・手当	4,758百万円	4,511百万円
賞与引当金繰入額	283百万円	493百万円
役員賞与引当金繰入額	46百万円	52百万円
退職給付費用	245百万円	246百万円
賃借料	1,444百万円	1,482百万円
支払手数料	1,209百万円	1,531百万円
ソフトウェア償却	816百万円	806百万円
社用資産減価償却費	173百万円	175百万円

7. 関係会社との取引に係るものが、次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
受取利息	214百万円	399百万円
受取配当金	1,952百万円	592百万円
投資収益	1,060百万円	666百万円

上記以外の関係会社との取引に係るものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
関係会社との取引に係る営業外収益	146百万円	179百万円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式27,952百万円、関連会社株式766百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式27,818百万円、関連会社株式766百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金超過額	1,591百万円	757百万円
減価償却超過額	405百万円	355百万円
有価証券評価損	222百万円	213百万円
退職給付引当金超過額	79百万円	83百万円
未払事業税	75百万円	93百万円
その他	1,868百万円	2,018百万円
繰延税金資産小計	4,243百万円	3,521百万円
評価性引当額	284百万円	275百万円
繰延税金資産合計	3,958百万円	3,246百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	3,417百万円	3,827百万円
為替差益否認	2百万円	2百万円
その他	1百万円	100百万円
繰延税金負債合計	3,422百万円	3,930百万円
繰延税金資産の純額	536百万円	684百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度(平成29年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

当事業年度(平成30年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
営業投資 有価証券	その他 有価証券	(株)千葉興業銀行第1回第六種優先株式	100,000	2,494
		T R AホールディングスA種優先株式	20,000	1,371
		(株)池田泉州ホールディングス第1回第七種 優先株式	1,000,000	1,227
		(株)池田泉州ホールディングス第三種優先株式	500,000	1,000
		(株)トマト銀行第1回A種優先株式	500,000	598
		小計	2,120,000	6,692
投資有価 証券	その他 有価証券	ユニゾホールディングス(株)	883,000	2,277
		新日鉄興和不動産(株)	11,805	1,333
		エコ・パワー(株)	5,663,800	1,249
		生化学工業(株)	589,968	1,144
		日東紡績(株)	411,800	929
		(株)みずほフィナンシャルグループ	4,473,300	856
		三菱鉛筆(株)	308,000	738
		理研計器(株)	302,000	700
		愛知時計電機(株)	164,200	683
		大興電子通信(株)	517,569	637
		D O W Aホールディングス(株)	147,210	560
		(株)滋賀銀行	1,018,000	545
		Y K K(株)	2,000	474
		大日精化工業(株)	107,400	471
		オイレス工業(株)	173,400	392
		(株)エスケーエレクトロニクス	150,000	387
		ニチレキ(株)	304,000	373
		(株)安永	158,300	371
		(株)リケン	58,900	352
		(株)アクティオホールディングス	220,000	308
		(株)商工組合中央金庫	3,000,000	300
		アルピコホールディングス(株)	1,714,200	299
		西部石油(株)	120,000	287
		(株)西松屋チェーン	234,500	281
		飯野海運(株)	550,000	279
		(株)岡三証券グループ	420,000	267
長野計器(株)	199,663	241		

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価 証券	その他 有価証券	キッセイ薬品工業(株)	83,053	238
		協同油脂(株)	210,000	237
		(株)クレディセゾン	120,000	209
		須賀工業(株)	500,000	200
		中泰租賃股份有限公司	4,000,000	188
		その他73銘柄	3,810,029	3,013
		小計	30,626,097	20,832
		計	32,746,097	27,525

【債券】

		銘柄	券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
営業投資 有価証券	その他 有価証券	(株)みずほフィナンシャルグループ 第4回任意償還条項付無担保永久社債	20,000	20,282
		(株)みずほフィナンシャルグループ 第1回任意償還条項付無担保永久社債	15,000	16,089
		(株)みずほフィナンシャルグループ 第2回任意償還条項付無担保永久社債	15,000	15,262
		(株)三井住友フィナンシャルグループ 第2回任意償還条項付無担保永久社債	5,000	5,592
		(株)みずほフィナンシャルグループ 第3回任意償還条項付無担保永久社債	5,000	5,156
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ 第3回任意償還条項付無担保永久社債	4,000	4,279
		住友生命保険相互会社第1回利払繰延条項・期限 前償還条項付無担保社債	4,000	4,131
		ソフトバンクグループ(株)第1回利払繰延条項・期 限前償還条項付無担保社債	3,000	3,039
		三井住友海上火災保険(株)第1回利払繰延条項・期 限前償還条項付無担保社債	3,000	3,026
		日本生命保険相互会社第1回利払繰延条項・期限 前償還条項付無担保社債	2,000	2,191
		(株)三井住友フィナンシャルグループ 第4回任意償還条項付無担保永久社債	2,000	2,147
		銀座大栄ビル特定目的会社 第2回一般担保付特定社債	1,860	2,033
		三菱商事(株)第2回利払繰延条項・期限前償還条項 付無担保社債	2,000	2,029
		三井住友トラスト・ホールディングス(株) 第1回任意償還条項付無担保永久社債	1,900	2,023
		G号1号インドネシア共和国円貨債券(2016)	2,000	2,018
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ 第1回任意償還条項付無担保永久社債	1,900	2,014
		E号インドネシア共和国円貨債券(2015)	2,000	2,006

銘柄		券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)	
営業投資 有価証券	その他 有価証券	㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ 第4回任意償還条項付無担保永久社債	1,600	1,620
		三菱商事㈱第3回利払繰延条項・期限前償還条項 付無担保社債	1,500	1,597
		T D ・ D S 特定目的会社第2回一般担保付特定社 債	1,400	1,580
		三菱地所㈱第2回利払繰延条項・期限前償還条項 付無担保社債	1,500	1,507
		三井住友トラスト・ホールディングス㈱ 第2回任意償還条項付無担保永久社債	1,000	1,205
		㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ 第2回任意償還条項付無担保永久社債	1,000	1,109
		住友生命保険相互会社第4回A号利払繰延条項・ 期限前償還条項付無担保社債	1,000	1,048
		マスマチュアル生命保険㈱ 第2回利払繰延条項付無担保A号永久社債	1,000	1,041
		住友生命保険相互会社第2回A号利払繰延条項・ 期限前償還条項付無担保社債	1,000	1,024
		M S & A D インシュアランスグループホールディ ングス㈱第1回利払繰延条項・期限前償還条項付 無担保社債	1,000	1,013
		損害保険ジャパン日本興亜㈱第2回利払繰延条 項・期限前償還条項付無担保社債	1,000	994
		三井住友トラスト・ホールディングス㈱ 第3回任意償還条項付無担保永久社債	700	708
		秋葉原大栄ビル特定目的会社 第2回一般担保付特定社債	500	520
		イオン㈱第4回利払繰延条項・期限前償還条項付 無担保社債	500	501
		大栄不動産㈱第3回無担保社債	500	499
		三菱商事㈱第5回利払繰延条項・期限前償還条項 付無担保社債	400	402
		積水ハウス㈱第1回利払繰延条項・期限前償還条 項付無担保社債	300	302
		計		105,560

【その他】

		種類及び銘柄	投資口数等	貸借対照表計上額 (百万円)
営業投資 有価証券	その他 有価証券	(海外特別目的会社が発行する優先出資証券)		
		Mizuho Capital Investment(JPY)2 Limited	35口	3,527
		(資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券)		
		三芳町プロパティーズ特定目的会社 第1回優先出資	32,000口	1,600
		虎ノ門インベストメント特定目的会社 第1回優先出資	20,042口	1,233
		(投資事業有限責任組合及びこれに類する組合への出資)		
		東急不動産「ブランズシティ世田谷中町」匿名組合	-	6,000
		東急不動産「ブランズ二子玉川テラス」匿名組合	-	5,000
		東急不動産「ブランズシティ永田町」匿名組合	-	3,500
		チェリーリーシング株式会社匿名組合	-	2,300
		ドリーム・メザンデット・ファンド4 投資事業有限責任組合	-	1,814
		日本土地開発合同会社匿名組合	-	1,500
		MFG US Property Fund , LLC	-	1,340
		U.S.プライム・オフィスファンド 投資事業有限責任組合	-	1,058
		コスモスイニシア「TY0ビル」匿名組合	-	1,000
		PLC7合同会社匿名組合	-	987
		DREAM US Fund, LP	-	906
		船舶投資ファンド1号匿名組合	-	821
		合同会社SIAブリッジ3号匿名組合	-	779
		合同会社ダブルオーズリー匿名組合	-	765
		BTS5リアルエステート販売合同会社匿名組合A号	-	750
		MC GreenOak Core Plus Blocker, LP	-	733
		合同会社晴海インベストメント1匿名組合	-	697
		UBS Participating Real Estate Mortgage LP	-	693
		MC-Seamax Shipping Opportunities Fund LP	-	660
		合同会社ダブルオーセブン匿名組合	-	600
		合同会社アイランドフレッシュ匿名組合	-	595
		PLC8合同会社A号匿名組合	-	500
PLC8合同会社B号匿名組合	-	500		
コスモスイニシア「イニシア日野」匿名組合	-	500		
合同会社北港インベスト匿名組合	-	475		

種類及び銘柄		投資口数等	貸借対照表計上額 (百万円)
営業投資 有価証券	その他 有価証券	DUMF L.P.	- 473
		コスモスイニシア「イニシア西新井」匿名組合	- 440
		合同会社ダブルオーシックス匿名組合	- 423
		船舶投資ファンド2号匿名組合	- 399
		合同会社ダブルオーフォー匿名組合	- 365
		IPHF 5 新町通合同会社匿名組合A号	- 330
		合同会社キューズロジ匿名組合	- 309
		合同会社ウェストゴールドリーシング匿名組合	- 304
		合同会社ダブルオーファイブ匿名組合	- 300
		船舶投資ファンド3号匿名組合	- 289
		Europa Fund V (No. 2) L.P.	- 274
		YCオフィスブリッジ合同会社匿名組合F号	- 233
		合同会社北関東SCプロジェクト匿名組合B	- 222
		合同会社プラムイースト匿名組合	- 202
		合同会社プレミアムオートモーティブアセット 匿名組合A	- 186
		PLC 6 合同会社匿名組合	- 184
		その他10銘柄 (投資法人投資証券)	- 98
		DREAMプライベートリート投資法人	4,510口 5,291
		丸紅プライベートリート投資法人	368口 3,753
		三井不動産プライベートリート投資法人	2,440口 2,730
		ブローディア・プライベート投資法人	2,450口 2,588
		D&Fロジスティクス投資法人	250口 2,500
		SCリアルティプライベート投資法人	190口 2,003
		野村不動産プライベート投資法人	18口 1,922
		地主プライベートリート投資法人	154口 1,558
		ニッセイプライベートリート投資法人	1,500口 1,510
		ケネディクス・プライベート投資法人	1,350口 1,469
		NTT都市開発・プライベート投資法人	1,200口 1,207
		SGAM投資法人	840口 898
		センコー・プライベートリート投資法人	700口 772
		東京建物プライベートリート投資法人	700口 705
		ヒューリックプライベートリート投資法人	500口 500
		日本土地建物プライベートリート投資法人	400口 412

種類及び銘柄		投資口数等	貸借対照表計上額 (百万円)	
営業投資 有価証券	その他 有価証券	Oneプライベート投資法人	40口	400
		CREロジスティクスファンド投資法人	3,000口	339
		三井物産プライベート投資法人	300口	300
		イオンリート投資法人	2,352口	264
		京阪プライベート・リート投資法人	200口	203
		(信託の受益権)		
		Anatolia Pass Through Trust A号信託受益権	-	1,612
		売掛債権信託劣後受益権(1銘柄)	-	152
		小計	-	78,974
有価証券	その他 有価証券	(投資事業有限責任組合及びこれに類する組合 への出資)		
		マッターホルンリーシング(有)匿名組合	-	529
		小計		529
計				79,504

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
賃貸資産							
情報関連機器・事務用機器	13,735	2,859	2,324	14,270	9,212	2,321	5,058
産業工作機械	502	1,081	226	1,358	169	90	1,188
土木建設機械	3,907	778	748	3,937	1,450	538	2,486
輸送用機器	9,382	1,638	1,205	9,814	4,790	1,395	5,024
医療機器	2,998	206	288	2,916	1,215	398	1,700
商業・サービス業用機械設備	565	148	106	608	293	119	315
その他	79,550	74,512	57,590	96,473	387	758	96,085
賃貸資産計	110,643	81,226	62,491	129,379	17,520	5,622	111,858
賃貸資産前渡金	311	6,418	871	5,858	-	-	5,858
社用資産							
建物及び構築物	3,859	61	32	3,888	2,669	77	1,218
器具備品	523	30	32	522	326	31	196
土地	1,322	-	-	1,322	-	-	1,322
リース賃借資産	284	52	-	336	159	47	176
社用資産計	5,989	144	65	6,068	3,155	155	2,912
有形固定資産計	116,945	87,790	63,428	141,306	20,676	5,778	120,630
無形固定資産							
賃貸資産	504	51	93	462	359	49	103
その他の無形固定資産							
ソフトウェア	19,639	745	-	20,384	18,109	806	2,275
電話加入権	38	-	-	38	21	0	17
その他	56	661	380	337	-	-	337
その他の無形固定資産計	19,733	1,406	380	20,760	18,130	806	2,630
無形固定資産計	20,238	1,458	474	21,223	18,489	855	2,733
長期前払費用	276	225	122	378	2	2	375

(注) 1. 賃貸資産(有形及び無形固定資産)の当期増加額は、賃貸資産の購入によるものであります。

2. 賃貸資産(有形及び無形固定資産)の当期減少額は、売却・撤去によるものであります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	1,007	1,185	146	860	1,185
賞与引当金	283	493	283	-	493
役員賞与引当金	50	55	47	2	55
債務保証損失引当金	63	26	-	63	26

(注) 1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による取崩額855百万円及び債権回収による取崩額5百万円であります。

2. 役員賞与引当金の「当期減少額(その他)」は、支給見込額と実支給額との差額であります。

3. 債務保証損失引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで				
定時株主総会	6月中				
基準日	3月31日				
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日				
1単元の株式数	100株				
単元未満株式の買取り					
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部				
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社				
取次所					
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額				
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 当社の公告掲載URLは次のとおり。 https://www.ibjl.co.jp/				
株主に対する特典	<p>株主優待</p> <p>(1) 対象株主 毎年3月31日現在の株主名簿に記録された100株以上保有の株主</p> <p>(2) 優待内容</p> <table border="1"> <tr> <td>連続保有期間 2期末満</td> <td>100株以上保有の株主に一律3,000円相当の図書カードを贈呈</td> </tr> <tr> <td>連続保有期間 2期以上 ()</td> <td>100株以上保有の株主に一律4,000円相当の図書カードを贈呈</td> </tr> </table> <p>() 連続保有期間2期以上の確認は、基準日(毎年3月31日)の株主名簿に、前期末と同一株主番号で連続して記録された株主といたします。</p>	連続保有期間 2期末満	100株以上保有の株主に一律3,000円相当の図書カードを贈呈	連続保有期間 2期以上 ()	100株以上保有の株主に一律4,000円相当の図書カードを贈呈
連続保有期間 2期末満	100株以上保有の株主に一律3,000円相当の図書カードを贈呈				
連続保有期間 2期以上 ()	100株以上保有の株主に一律4,000円相当の図書カードを贈呈				

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第48期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月23日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月23日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第49期第1四半期）（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）平成29年8月4日関東財務局長に提出。

（第49期第2四半期）（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）平成29年11月8日関東財務局長に提出。

（第49期第3四半期）（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）平成30年2月8日関東財務局長に提出。

(4) 発行登録書（社債）

平成29年9月22日関東財務局長に提出。

(5) 訂正発行登録書（社債）

平成29年6月27日関東財務局長に提出。

(6) 臨時報告書

平成29年6月27日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月22日

興銀リース株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉田 波也人 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野根 俊和 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている興銀リース株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、興銀リース株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、興銀リース株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、興銀リース株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年 6月22日

興銀リース株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉田 波也人 印
--------------------	-------	----------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	野根 俊和 印
--------------------	-------	---------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている興銀リース株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第49期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、興銀リース株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。